京城日報

十六日夕刊

定價 本紙 一部金五錢 一ヶ月金六十五錢 郵税共
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 小川三之介

支那の形勢

▲段總理通告と議會

段總理は十四日衆議院に通告を發し對獨宣戰案は既に七日大總統より議員の同意を求めたるが本件は非常緊急問題なるを以て速に決定を與へられん事を望むと督促せり依て全院委員長彭允彛氏は各黨派に向ひ十七日、又は十九日開會せん事を交渉せるが民黨側は內閣問題解決せざる以前に會議を開く事を欲せざる模様なり(北京特電)

▲直隷派の暗中飛躍

段氏が今尚ほ辭職せざるは倪嗣冲氏が極力應援せる爲めにて段を擁護するものは今總に倪氏あるのみ直隷派は曹錕を謀主とし王士珍氏を擁立せんとして暗中飛躍を試み倪氏は今自宅に在りて督軍代表者十餘名を招き對抗策を凝し居れり(北京特電)

▲民黨安協に耳を藉さず

十三日來政府黨議員は民黨に對し段總理の下に聯立內閣を組織す可く安協を申込み居れども民黨側は時局拾收策としては先づ第一に段氏の辭任を要すとなし毫も耳を藉さず(北京特電)

◎露國聯立內閣實現か

露國首相リヴオーフ公は下院議長ロジヤンコ及びチヘーゼ兩氏に對し書面を以て臨時政府を改造し從來政府の施設に關し何等直接容喙を許さざりし政治的團體の代表者をも閣員に加へんとの意を傳へたるが今や聯立內閣組織の說各地に起りつゝあり(露都電報)

◎駐露伊國領事打消

日本陰謀說に關して

諸新聞紙は莫斯科日露協會長シンチエコフ氏の同市駐在伊太利總領事との會見談として掲載して曰く伊國總領事は露國の現在が亂麻の狀態にして改まらずんば各聯合國は露國を見捨てゝ其自ら避援くに任せ日本は現行條約に依り西比利亞を占領し遠くウラル地方に到る可しと右に對し伊國總領事はシンチエコフ氏に會見したる事無しと取消を申込み莫斯科在日本總領事も日本は露國に對して敵意を有する事無しと聲明せり(露都電報)

◎獨逸の大軍移動

獨逸は現時休戰狀態にある東部戰線より約四十個師團六十萬人を佛國戰線に移動せしめたり(露都電報)

◎希臘王に退位を迫る

サロニカに於ける人民は希臘皇帝コンスタンチンに退位を要請せり(路透電報)

◎三黨首會合

三浦觀樹子は十四日歸京せり近く犬養國民黨總理と會見したる上更に加藤憲政會總理原政友會總裁に對し三黨首會合再開を交渉すべしと傳へらる(東京電報)

◎駐白公使決定

前駐墨公使安達峰一郎氏は白耳義駐剳全權公使に任せらるゝ事に決定せり(東京特電)

◎東郷中將歸鮮

鎭海要港部司令官東郷中將は十六日朝高麗丸にて著釜直ちに鎭海に向へり(釜山特電)

◎杉村檢事正歸任

杉村大邱地方法院檢事正は十六日朝釜山著大邱へ向へり(釜山特電)

◎三本鐵道局理事

三本鐵道局理事は十六日朝內地より釜山へ上陸直ちに龍山へ歸任せり(釜山特電)

◎驅逐艦入港

驅逐艦村雨朝霧十五日夕釜山入港十七日出港の筈(釜山特電)

◎芳澤氏歸朝見合

北京日本公使館芳澤參事官は母堂病氣の爲め十二日北京發歸朝の筈なりしも其後母堂の病勢快方に向ひたる由にて暫く其出發を見合す事となりたり(北京)

◎政務總監歸期

滿洲方面視察中なりし山縣政務總監は事務の都合上旅行の日程を變更し十六日安東驛五龍背に一泊十七日朝同地出發同日午後七時三十分南大門驛著列車にて歸任の事となれり

◎監獄典獄官會議(第三日)

監獄監督官會議第三日は十六日午前九時より總督府第二會議室に開催、出席者前日の如く國分司法部長官統裁の下に直に日程に入り午前は諮問午後は協議事項ありて四時閉會せり

◎警視任命

十四日附を以て左の通り任命ありたり

任朝鮮總督府警視

陸軍憲兵中尉 持永虎吉
同 久留島郎造
同 篠原寛

◎判任見習合格

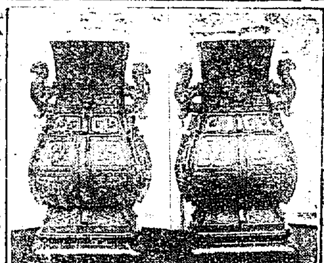
總督府にては判任官見習試驗筆記合格者九十名に對し七日口述試驗を施行の結果內地人四十名、朝鮮人三十一名計七十一名の合格を得、及第者に對しては既に夫れ〳〵合格の通牒を發せり

◎巡査採用試驗期

總督府第二十三期巡査採用試驗は本月十七日より二十一日迄五日間施行の旨既報せるが右は誤聞にして六月一日より五日迄五日間教習所內にて施行らるゝ筈

⊠寺內前總督へ寄贈せる青銅尊

總督府並に所屬官署職員一同より前總督寺內首相に寄贈すべき記念品周式相饗紋青銅尊一對は既に出來美術品製作所より總督府に納入せるより同所にては此の程寺內首相に向け發送の手續を爲せり



◎李王御歸還

李王殿下には閔長官、國分次官其の他の李王職主要職員、朝鮮貴族等を隨へられ既記の如く十六日午後六時二十五分南大門驛著特別列車にて御歸還あり

◎內山大將動靜

聖旨を奉じ北鮮駐屯各隊御慰問中の侍從武官長陸軍大將內山小二郎氏は來る二十二日元山より入京朝鮮ホテルに投宿二十三日休養二十四日午前八時三十分發南行列車にて鐵路歸東すべし尙ほ大將に隨從し居る軍務局高級副官竹內中佐は同行歸龍すべしと

◎山梨中將北行

豆滿江沿岸を巡視せん

龍山駐屯諸部隊巡視中なりし教育總監部本部長山梨陸軍中將は黑阪第十九師團參謀を隨へ十六日午前九時三十分南大門驛發列車にて元山に向ひたるが停車場には立花中將高橋岡本兩大佐其他見送り盛んなりき尙ほ一行は羅南を經て會寧に到り豆滿江沿岸の國境第一線を巡閲せし上約三週間を費やし淸津より御用船に搭乘直路歸東の由

◎松永長官視察

松永京畿道長官は小松道事務官を隨へ十七日午前八時三十分南大門驛發列車にて驪州楊州兩郡管內狀況視察の爲め出張すべく往復二日間の豫定なりと

◎慶南長官出京

慶尙南道長官佐々木藤太郎氏は土木事業其の他の事務打合せの爲め一週間の豫定にて十六日付出府を命ぜられ不日出京す可し

◎野砲兵監來鮮

教育總監部野砲兵監陸軍少將武田正宗氏は林副官を隨へ第十九師團野砲兵聯隊檢閲のため來鮮六月一日二日羅南聯隊を檢閲し元山を經て入京十日龍山野砲兵中隊の檢閲を行ふべしと

◎金谷大佐等入京

參謀本部課長金谷大佐は鰲津濱田兩大尉を隨へ十七日午前八時五十分著列車にて入京市中を視察せし上同夜發滿洲に直行の筈なるが用向滿洲戰跡の視察なりと

◎芳賀院長用向

芳賀總督府醫院院長及び佐藤醫官が十五日出發木浦方面に出張せるは全羅南道小鹿島慈惠醫院の開院式に臨席する爲めなりと

◎入澤部長出張

京畿道第一部長入澤重麿氏は山內書記外三名を隨へ往復四日間の豫定にて十七日朝出發春川加平南部郡管內の郡事務並交通狀況の視察を爲す可し

◎三本理事歸任

鐵道局營業課長理事三本武重氏は久しく東上中なりしが十六日午後九時南大門著列車にて歸京す

◎大正五年豆類收穫高

總收高三百八十八萬三千石
作付反別六十七萬八千町歩

大正五年の豆類作付は播種當時雨露適度にして發芽良好なりしも其の後降雨打ち續きて徐々に生育を害せられたるもの或は洪水の害を蒙りたるものあり就中全羅北道、全羅南道、慶尙南道、江原道に於て其の被害甚しく然れども各道を通せば作柄概して良好なりしと總作付反別の增加したる上に依り其の收穫高は大豆二百九十五萬七千二百二十六石、小豆八十萬三千三百十三石、綠豆六萬五千三百四十二石、落花生一萬一千八百六石其の他の豆類四萬四千三百八十六石合計三百八十八萬二千七百十三石にして之を前年の實收高に比すれば大豆六分四厘、小豆六分六厘、綠豆一割三分九厘、其の他の豆類六割六分五厘の增加を示せり、而して其の他豆類の著しく增加せるは咸鏡北道に於て輸出向菜豆及び豌豆の特に增加せるに依る、今豆類作付反別收穫高累年表並に地方別豆類作付反別收穫高を示せば左の如し

豆類作付反別及收穫高累年表

年次	作付反別(町)	收穫高(石)
大正元年	五五三、〇七七、〇	三、三四五、四七二
同二年	五九三、五八五、〇	三、二一七、一七一
同三年	六二三、四一九、八	三、三〇五、八九九
同四年	六六六、四三三、七	三、六二三、六〇四
同五年	六七七、九四四、四	三、八八二、〇七三

地方別豆類作付反別收穫高

道名	作付反別(町)	收穫高(石)
京畿道	六六、九二八、九	四三一、六八〇
忠淸北道	二一、六〇一、三	一六七、一二六
忠淸南道	四三、八二六、〇	二六九、二二五
全羅北道	二一、四三二、二	一四三、一一九
全羅南道	二四、一一二、六	一二三、〇六〇
慶尙北道	四八、九四三、三	三二六、四六八
慶尙南道	四五、〇五一、〇	二八二、六二五
黃海道	九二、一八三、四	五〇五、三五六
平安南道	七四、三六九、一	四一一、九四三
平安北道	七六、三五八、一	三九一、二七四
江原道	五六、八一三、六	二五四、〇八六
咸鏡南道	六三、一七六、五	三五九、七四二
咸鏡北道	四三、〇七七、二	二二四、三六九
計	六七七、九四四、四	三、八八二、〇七三

◎朝鮮砲兵工廠

設置地は尙ほ未定

陸軍省の大正六年度新事業となり居る朝鮮砲兵工廠支廠の新設は前期議會解散のため左右共決せず今日に至り居れるが漏聞く所によれば來る六月の特別議會に陸軍當局は右豫算案を提出する事に決定目下諸種手續中との事なり而して設置地は本省にて未だ確定し居らず南大門驛附近か京城附近か確定し居らず當地民の希望をも參酌し切に諸般の利害關係を考査中の由なるが近く其の決定を見るべし

◎煙草耕作者表彰式

忠淸北道忠州黃色煙草耕作者褒賞授與式は十二日午後二時より同組合事務所に於て擧行耕作者中七十餘名に對して褒賞を授與せるが當日は忠淸北道長官、第一部長、第二部長、財務部長、岡田專賣課技師其の他多數の官民列席せり

◎內地人側も歡迎

間島鮮人視察團

十七日午後五時十分南大門驛著京元線列車にて入京の筈なる間島視察團一行歡迎に付大正親睦會にて準備中なることは昨報の如くなるが內地人側にても朝鮮銀行、東洋拓殖會社、三井物產會社、郵船會社、東亞煙草會社其他銀行會社にても之に贊同して大に歡迎の意を表する爲め來る二十三日午後二時より景福宮內慶會樓に於て大々的歡迎會を擧行することゝなれり

◎軍司令官の設宴

秋山軍司令官は來る十九日正午官邸に京城新聞通信社長等を招待午餐會を催す由なるが立花中將其他も列席すべし

◎石塚總裁の張宴

十五日東上の途に就きし東拓總裁石塚英藏氏及同理事高瀨梅吉氏の一行は十六日朝著關の旨會社に入電ありしが同夜春帆樓に下の關官民有力者約二十名を招待し下の關出張所の開設披露宴を開き十七日朝東京に向ふべしと

◎佐藤博士披露宴

駐剳軍々醫部長醫學博士佐藤恒丸氏は十九日昇任披露のため秋山大將山縣政務總監立花古海兩中將其他勅任官十餘名を朝鮮ホテルに招待張宴する由

◎棉作激增豫想

平南の棉作は昨年未曾有の好調を呈し耕作者は何れも豫想外の收益を擧げ得たる關係上本年は作付反別俄かに激增すべく然かも本年の棉花市場が昨年同樣の好調を持續するや否や俄に斷定し得べきに非ざると共に無謀なる作付擴張は他作に及ぼす影響甚大なるを以つて其の作付に就いては當局者に於ても出來得る限りの注意を加ふべしと因に昨年の收穫高は約三百二十萬斤にして龍岡、中和、江西、江東、大同の諸郡を盛產地として平壤、鎭南浦等に集散せしもの三百萬斤(黃海道産を含む)に達し平均買收價格は十二圓內外なり(平壤)

□長春より

十三日夜 天彭生

本日午前七時三十分長春のヤマトホテルを發して吉林に向ふ。下九臺を過ぐる比より平原漸く少に、十門嶺附近より丘陵相連なり、樒など叢がり生ずる間に杏花の未だ風に散るを見る。十一時二十五分吉林著、馬車を驅りて市街に入り朝陽門、德勝門を經て北山の玉皇閣に上る。閣中に吉林督軍孟恩遠氏の書したる虎の大字ありて、筆勢極めて雄勁なり。傳へ聞く同氏はもと一介の武夫にして、眼に一丁字なかりしが、虎の一字のみを學ぶこと二十餘年、遂にこの熟練に至りたりと。午後二時二十分吉林發、六時二十五分長春著、直ちに長春の市街を一巡してヤマトホテルに入り、十時半、奉天に向ふ。總監閣下は連日の旅行に疲勞の態なく健史に健を加へ、鈴木局長の舌鋒は日一日より鋭し。一行皆無事。

◎鳥致院市場移轉

大分曲折を經たる鳥致院新市場も愈々成立する事となり來る二十二日其移轉式を擧行の筈なるが元來鳥致院市場は別に規定せられたる區域無限なく只々市街地一般を市場と見做し開市したる爲め開市日の如きは公鳥滿鳥道路上は勿論各町共市場商人の露店若しくは他人の軒下に商品を陳列し雜沓の如きも行き當りバッタリ的に店を擴げ市街の美觀を損する事夥しきのみならず公鳥滿鳥間往復の自動車馬車人車等は爲めに妨害抑留さるゝの狀態加ふるに衛生上にも頗る惡しく當局に於ては是れが改善の方法に就き數年來研究を重ね苦心しつゝあり又地許に於ても種々攻究の結果小原長官赴任と共に快刀亂麻を斷つの態度を以て今回の計畫を樹て直ちに著手せしめたり爾來年を閲みする一年五箇月途に今回の移轉を見るに至れり新市場敷地は北は本町西は柳町に接續し東と南とは道界たる鳥川によりて劃し廣袤正に三萬餘坪內一萬坪を第一期工事となし殘餘は年を追ふて完成せしむべく內容は市場專用道路幅員六間側溝二尺の道路延長一千餘間市場敷地用道路有効幅員八間側溝二尺にして延長實に八百餘間及總工費金六千圓に及べり(鳥致院)

◎村田博士歸東

今回鴨綠江採木公司理事長を辭任せる林學博士村田重治氏は十五日午後六時三十分安東驛發列車にて歸東の途に就けるが當夜停車場には官民多數の見送りありたり(安東縣)

◎鴨江の流筏

昨今既に流筏期に入れるに依り採木公司にては渾江口並に帽兒山分所を開設して檢査事務を開始せるが十三日迄の著筏數は六十八臺にて其の多くは小丸大若しくは小角材なるが月末以後には漸次流下數增加す可し(安東縣)

◎鯛烈氏逝く

帝國麥酒株式會社長鯛烈氏は兩三月病氣の爲め福岡大學病院に於て療養の處藥石効なく十四日午後鄕里舟木にて逝く行年五十四歲なりと(釜山)

【淸州】

▲淨土教會所新築 過般來新築工事中なりし淨土宗淸州教會所は去五日上棟式を終りて目下屋根葺壁付け等を行ひつゝありて之が落成は遲くも來月上旬なれば竣工を俟つて入佛供養を營むべしと

▲淸州地主組合 既報の如く淸州郡地主組合創立總會は十四日午後二時より公立普通學校々庭に於て擧行せられたるが當日は柳忠北道長官外有數關係職員の臨席あり出席員二百餘名に達し規約の制定役員選擧後道長官の訓示あり同五時過散會したり、因に組合規約の主なる事項は土地賃借に七箇年を一期間とすること小作料納入期を每年十二月二十日と勵行すること盃に改良種を植ゆること其他短冊形苗代、選種稗拔取、籾摺臼使用、模範耕作人表彰をなすこと等を規定したり

▲忠北陸地棉作劇增 忠北道沃川永同兩郡にて數年來栽培の陸地棉は累年成績極めて良好品質優良なるため逐年作付反別の劇增を示しつゝあり卽ち昨年の作付反別九百八十町歩に對し本年は新たに報恩郡一圓及び淸州郡の一部を加へ總

【裡里】

▲四月中登記件數 光州地方法院裡里出張所の取扱たる登記其他の成績は不動產登記八百六十七件三千三百四十五筆商業登記三件地方金融組合登記二件確定日附付與十三件謄本抄本閲覽七十四件登錄稅及び手數料千百十七圓二十一錢

▲裡里驛成績 湖南線裡里驛四月中の成績は乘車人員七千六百三十六人降車人員七千六百六十六人發送手小荷物六千二百四十九斤到著同一萬六千六百九十三斤發送貨物二千二百五噸到著同三千九百〇五噸客車收入六千九百三十圓二十三錢貨車同六千二百七十二圓四十八錢合計一萬三千二百〇二圓七十一錢にして先月に比し約三千餘圓の增加なり

▲輕鐵裡里驛成績 全北輕鐵四月分の裡里驛に係る成績は乘車人員二千百八十五人降車同二千二百五十九人發送手小荷物四千斤到著同二千〇八十七斤發送貨物九百〇一噸到著同千〇十八噸各車收入千〇二十二圓二十九錢貨車同六百五十四圓五十四錢合計千六百七十六圓八十三錢なり

【仁川】

▲蛔蟲驅除方講演 仁川公立普通學校及び高等小學校にては十九日午後二時より蛔蟲驅除に關する講演會を催し夏期衛生上の注意を促す由なるが講演者は京城府衛生囑託田中半四郎氏にて一般の來聽を歡迎する由

▲米檢成績 五月上半月の檢査成績は上格九五八叺下格四九三三叺にして四月上半月に於ける上格三、一一〇叺下格五五〇叺に比すれば總高に於て八、一七三叺の減少を示し其成績は優等五五〇叺上格二、一五二叺下格五、四一四叺にして之を圖より數字上の減少に過ぎざるも大體の成績劣れるに非ざる由輸移出は大阪大連等なりと

人事消息

▲工藤英一氏(平南道長官) 廿日頃出發管內沿海郡方の視察をなす筈
▲內村平南慈惠院長 院長會議列席の爲め三十日上京の筈
▲富永平南第二部長 十九日出發黃海道方面視察の筈
▲小倉武之助氏(大邱電氣會社々長) 十六日退京
▲新井新造氏(實業家) 十五日元山へ
▲藤森勇氏(北滿製粉會社支配人) 十六日退京
▲若谷保三郎氏(貿易商) 十六日朝入京南尾旅館へ
▲換松榮氏(德山海軍燃炭所主計長主計中監) 同上
▲志賀祐多利氏(東京辯護士) 十五日夜入京旭町二石山氏方滯在
▲遠山熙氏(湖南農工銀行支配人) 支店業務視察の爲め十五日午後〇時入京本町中川旅館に投宿
▲宇野三郎氏(京城工專敎授) 十四日附忠南北慶南北へ出張を命ぜらる
▲秋山榮太郎氏(慶南昌原警察署長) 十四日附退職

庭燎の煙　松翠を染めて

◇◆◇朝鮮古代の絹卷物を展べし如き御行列◇◆◇

▲□▼李王殿下咸興本宮の御參拜▲□▼

▲□▼嚴肅なる儀式古典的の空氣▲□▼

咸興に於ける李王殿下には十三日午後いよ〳〵本宮及び定和陵の御展謁を了へられた、此の日殿下は午後一時半より盤龍山なる道長官々舍を御出發、車上の

◆◆殿下は黒の冠に◆◆

黃色のゆるやかなる祭服を召されその肩のあたりに輝ける金色の刺繡も御胸のあたりの石帶の色も何れも朝鮮の古禮による氣高き御姿に見受けられた、本宮に於ける殿下はまた正殿傍らなる齋室に於て黒色の祭服と金線を交へたる瓔珞の如き

◆◆冕旒御冠を召◆◆

され後ろに輝ける後垂の色も御胸のあたりの石帶の色も共に目覺むるばかり美しく靜々と黃色轎子に召され御上に黃の陽傘を翳せる行列もさながら朝鮮古代の絹卷物を展べし光景であつた、殿下は楊柳の御道づたひ正門を過ぎ境内に整列せる遠き

◆◆李氏一族の人々◆◆

及び軍人、內鮮人官民の間より正殿に入られ此處にて李朝太祖及び太祖以前の四代の祖先に崇嚴なる酌獻禮を執行はれたのである、正殿の祭壇には太祖を始めその以前の穆祖、翼祖、度祖、桓祖及び王后の位牌を祀りこれに朝鮮の古禮による種々の供物をそなへ

◆◆薄暗き殿堂の裡◆◆

には夢の如き燭かすかに燃えて殿下は左右に侍したる金、李兩贊侍、閔長官等と共に執禮の聲に起伏拜の禮を行はせられたのであつた、まだ打ち見る庭前には美しき空色の祭服召されたる李堈公殿下の冠に春光眩ゆく庭燎の焰紅々と燃え立ちて白煙ゆるく太祖

◆◆手植の松が枝を◆◆

染むる傍ら酒缸を捧げたる典祀の紅き衣も繪の如くまた黃金色の鼎盞たる傍らには閔長官の紅色の祭服に李載崑子爵の青色の服など朱殿に榮えて壯觀云はん方なし、斯くて宗廟の前に御禮拜後は白き祭文の紙を望燎位の焰に投じ殿下も親しくその燃え了るを御覽になつた猶ほ

◆◆境內老松の影に◆◆

楊柳の若葉差々たるあたり盛夏蓮に美しき豊沛樓にては殿下は樓上にてお茶を召され、午後四時此處を退出せられたのであつた

▽石人石馬物言はざるところ

▲□▼落暉に立てる李王殿下の御姿▲□▼

殿下はまたそれより黃色の祭服を召され自動車にて更に三里の道を定和陵に向はれた、陵は咸興の東方に在る、四時四十分

◆◇◆殿下の自動車◆◇◆

が胡連川橋畔楊柳の堤についた時、殿下は此處からまた雅やかなる轎子に召された、唯見れば先頭に立てる騎馬の憲兵につゞいて黃の陽傘をかざせる御轎に進みこれにまた祭服の人々の隨車の長列は古き朝鮮の絹卷物のやうに

◆◇◆頗る古典的な◆◇◆

ものであつた軈て御轎定和陵なる山に入れば古き松林の入口に陵の小々近し殿下は林間の齋室にて少憩此處にて黃色の服を水色の祭服に着換へられ紫の冠を戴かれた、かくて緋の如き幡子が暫く松林中を進めば山の奥まりたるところに

◆◇◆山陵の土饅頭◆◇◆

が見ねその下には黃色の天幕にて圍みたるあたり雨に荒たる丁字閣があつた、閣は御陵の靈魂を藏すといふところの裡にはまた數々の供物を供へ傍らには折から林間を洩る夕日陰にゆら〳〵と紅い蠟燭がゆらめいて見ねた、殿下は此處にても起伏の拜禮ありこれより

◆◇◆小鳥の聲幽邃◆◇◆

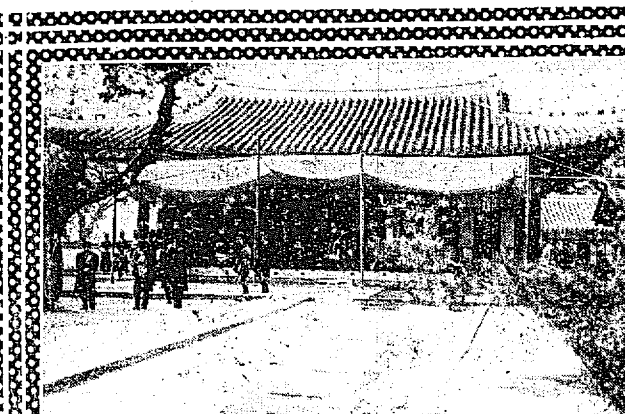
なるあたりをシヅ〳〵と進まれ高い山陵の上に起たれた、折から松林の高く幾群れ、落陣はあか〳〵と殿下の御胸の石帶に紫れて石人石馬の言はざるところ實にも一幅の畫の氣分に打たれたのであつた

◆◇◆丁字閣にては◆◇◆

また起伏拜の禮あり、次いで歸途は桓祖大王及び王后の碑閣にも立寄られた、御宿に御歸遊は夜の八時（咸興にて特派員）

氣高き御姿

◇咸興本宮の李王殿下（上）李王殿下が今正殿に祖宗の靈を祀られて庭の望燎位の石台に祝文を燒くを御覽あるところ、白煙ゆるく太祖手植の松を染めて黃色の天幕に殿下金色の冕旒等境內は純朝鮮の式による古典的氣分に漲りつゝあり、寫眞正面の建物は本宮の正殿、中央階に起たせらるゝは李王殿下及び李堈公殿下にして庭の中央は國分次官及び李載覺侯、更に中央なるは太祖手植の松にして其の左には今し典祀の人々祭文の紙を燒きつゝあり（十三日午後三時本宮にて特派員撮影）



◇咸興定和陵の起伏拜の禮（下）李王殿下が今太祖の御父なる桓祖の陵に參拜せられて再びその下の丁字閣にて起伏拜の禮を了らせられたるところ、閣の中央水色の祭服を召されたるは殿下なり、此のあたり幽邃なる杉林に山鳥の聲美し（十三日午後五時半特派員撮影）

◎御感興深し

釋王寺山麓の學校寺院に千百二十圓の御寄附

李王殿下には十五日の山內御巡遊に些の御疲勞も無く十六日は朝來新綠の山を御覽ありたるが初めての御見物とて御感興一層深かりし由なり又十五日龍にて御覽ありたる寺の養蠶事業及び學校寺院へ對しては金千百二十圓の御寄附あり尙ほ鰌の養魚場より獻上せし數尾の鱒も召されたるが、同所の鑛泉（炭酸）をも數瓶御持歸りあり德壽宮及び王妃殿下への御土產とせられたり又永興より臨時列車にて見送りせし遠き御一族の人々も多數釋王寺假驛に見送りたる殿下は十二時二十分御宿舍明殿發一時の列車にて一路京城に向はれたり尙永興驛頭（太祖發祥の地）へは李載崑子爵を御名代として黒石里の碑閣へは李載覺侯及び李完用伯を參候せしめられたり（十六日午後一時廿分釋王寺にて特派員發電）

◎洗浦驛御通過

李王殿下御藥用の特別列車は新綠薰る三防の峽を出で今海拔二千尺の高原なる洗浦の驛を通過す京元線の沿道梨花愈白し（十六日午後二時四十五分洗浦驛にて特派員發電）

◎朝鮮ホテルの亞米利加舞踏會

花の如き女優の出演

目下入京中の米國女優ミッス、ヘンリーウードと其の娘アーレンウードとは十六日午後九時三十分から朝鮮ホテルに於てアメリカンキバレットを演ずる筈であるアメリカンキバレットは此の四五年以來米國の女優が劇のはねた後に客からホテルに招かれて飲食の席上に於て劇中の一齣を演じたもので其の趣きは恰度日本の宴會に於て食事を爲しながら藝妓の舞踊を見るやうなもので西洋にては舞踊を見ながら食事を爲る事は殆ど此の外には無い位である舞妓は食卓の周圍を廻りながら舞踊し甚だ優艶なるのである希望者は同時刻までに朝鮮ホテル猪原支配人迄申込めば入會する事が能きる會費三圓と外に宴會費一圓五十錢を要するとの事である

火の手

◎臺灣談合事件

臺灣の談合事件は請負人二十六名總額二百萬圓にして其談合金二十萬圓を取りたるものなるが罪名は詐欺取財と決し臺北の主なる土木業者殆んど關係ありと（臺北特電）

◎江原道に降雹數回

江原道伊川郡地方にては本月八日午後三時頃より五時迄の間に數回の降雹あり大なるは直徑八分もあり積むこと三寸に及びたる所に依りては麥の葉を折られたる地方もあり同郡邑內開柱里桂木里にては麥の被害三四割に達したる模樣なりと

◎犯人は朝鮮に

三年前の巡査殺し

廣島縣警察署米山巡査は慘殺後三年間罪られ居りしに昨今に至り同巡査を殺害し河中に投込みたる犯人朝鮮某監獄に服役中なるを發見し廣島署は檢事局と凝議中なり（大阪特電）

◎暗礁に觸れて

支那式運送船の沈沒

平北龍川郡龍岩浦金德寶所有支那式運送船に同人及び外三名の船夫乘組み玉蜀黍百八十五石（九百四十五圓）を滿載し五月六日龍川に向け航行中九日午前九時頃宣川郡登山面七星串にて暗礁に衝突して沈沒するに至りたるが乘組員四名は幸くも避難したりと船體の損害約五百圓なりと

◎慘酷なる強盜

全南長興郡有治面朝陽里馬洙玉（三二）は去る四月二十九日夜靈岩郡金井面青龍里金炳德方へ忍び入りたるが金炳壽は外出中にて妻朴巨粉（三六）が長女百順（五）長男甲均（二）二男吉岩（三）三人と共に留守居を爲し居たるより巨塲にて居直り強盜と變じ巨粉に對し點火を命じ室內に在りたる煙管外數點を強奪して立去らんとせしが自分が顏を見られたるより發覺を恐れ末巨粉以下三人の兒を溫突の中へ押込み外より鍵を掛けて入口に藁を積み之に火を点じて燒き殺さんとせしかば百順は後の窓を押破りて外に出で第二人を救ひ出し巨粉は戶を押し破つて猛火の中をかい潛りて遁れ出でし所を又候馬洙玉は之を引捉へて毆り傷つけ其儘立去りし由にて此程其筋に逮捕され強盜傷人放火罪にて目下取調中

◎狂犬

京城南山町一丁目藤井乙吉方飼犬は十三日旭町一丁目長田勇作（三〇）鍾路昌洞曹秉善（三〇）の兩名に咬傷し獸醫診斷の結果狂犬と判明して即日撲殺せり

◎不正漁業者處罰

過般其筋に檢擧されたる爆藥不正漁業者前田茂平、松原利吉、田中健一、大森友松、富永正一、岡本武一の六名は此程釜山地方法院統營支廳にて各懲役四箇月に同松田山松は六箇月に又本庄物三郎は九箇月、遠池晋五郎、鈴木省五の兩名は各懲役三箇月に何れも釜山支廳にて處分されたり

◎高瀨船沈沒

平北新義州鴨綠江運輸組所有高瀨船（二十五石積）が五月一日午前十一時頃鴨綠江支流なる江界郡時中面深貴里の禿魯江を航行中風波の爲め岩礁に觸れて船底を破損して浸水沈沒せり乘組員四名は友船に救助されしが郵便行囊（空袋）十一個を流失したり因みに同船は引揚げの上修繕の見込みあり

◎倭城俱樂部靜座會

同俱樂部にては來般米田部、多田氏等の有志相謀り靜座會を催し親しく岡田氏に就き修行の妙境を會得せんと岩井氏を聘し毎週月曜午後四時半より熱心に指導を受けつゝありと

爆裂彈二百五十個を竊取す

朝鮮へ密移入せる形跡あり

山陰電氣株式會社にては鳥取縣日野郡日野尾村に發電所建設工事中にて工事用ダイナマイトを岩窟內に貯藏し居りしに去る九日暴風の夜に乘じ岩窟倉庫を破壞しダイナマイト二百五十個雷管五百導火線五束を竊取せる者あり之を朝鮮へ密移入せる形跡あるに就き米子署にて目下取調中なり（大阪特電）

◎李王殿下の御展謁ありし　咸興本宮と定和陵

李王殿下の御展謁ありし本宮といふのは咸興から海岸の西湖津に出る

▽一里餘程の　畑中にある

咸興の輕便鐵道に乘れば本宮の停車塲から直ぐである、本宮の建物は廣い咸興平野の畑中に在るけれども柵と柳の老樹がこんもり茂つてゐるから直ぐ判る初め此の地を定めたのは

▽李朝の太祖　李成桂王であつて北道陵誌といふ本には太祖が龍潜當時歸州洞の齋邸から此處にも來たと記してある、境內の建物は正殿と後安殿と紅箭門と典祀廳と齋室等があつて一時壬辰の亂

▽加藤淸正　の來た時兵燹に燬かれたのをまた建て替へたといふことである、初め太祖に此處をすゝめたのは例の釋王寺を創立した僧の無學であつて土地はその當時ある富人の所有であつた、そこで太祖は

▽無學の計畫　でその富人と將棊を試み賭けをして手に入れたのであつたその時太祖は將棊の駒になやむであると無學は門前を通る馬にかこつけて『あの馬めはなにをぐず〳〵して居るか』と叱つて暗に太祖に入智慧したのとであるが――これは頗るあやしいはなしである

▽太祖の寶物　には例の弱弓と箭と銀の陣笠と朝鮮の糸笠といふやうなものがあつて正殿の祭壇に祀つてある、また太祖は自ら松杉を植して頗る松を愛してゐたが此處にも手植の松といふのがある、また近くに紅箭門からは柳の道に

▽下馬碑など　があつて頗る李朝太祖と關係深きところである次に定和陵は咸興の東に咸興里にある陵は一面の松山で白壁の齋室が深みどりの林間に見ねて深山の白鷺が飛んでゐるのは洵に幽邃な氣持ちに打たれる、陵は山懷ろの

▽小高き芝生　の土饅頭で李朝太祖の御父桓祖及びその王后の陵が二つ並んで眠つてゐるその周圍にはまたいろ〳〵な石獸を彫つた石が並べられ前には不號石人が靜かに〳〵幽境の春を守つてゐる、高い芝生の下には

▽這次殿下の　禮拜を行はせられた丁字閣といふのがあつて朝鮮には靈魂が此處に留つてゐるといふのだ相な、此のあたり老松の間にくろふね躑躅の花が咲き亂れて小鳥の聲が淸らかにつたはる、また林間には桓祖及び懿惠王后の碑石がある

▽また太祖が　ゐたといふ歸州洞の跡の興殿といふ建物は惜しいことに先年取壞されて了うた、その跡にはまた歸州寺といふお寺がある、太祖は此處で讀書したといふ傳說がのこつてゐる

◎隨從記　金谷生

◆雨の御道中

―第七信―　王樂寺の遺跡

◇咸興の李王殿下は御宿も御參拜も何れも非常な御機嫌であつた、殊に十三日は道廳の上の知樂亭に登られ此處から全市街を始め城川江及び咸興平野を展望せられた、殊に盤龍山の方には太祖が騎馬の稽古を試みた馳馬臺や毬を遊んだ擊毬亭なども殘されたのであつた

◇十四日午前十時半殿下の一行が咸興を御出發に當つても沿道は非常な奉迎者、現に御著の時は街は店舖を閉めるといふ大騷ぎ、咸興の人は市すに及ばず遠く十里二十里の遠方から來た人もあつた

◇一行の自動車は歸途も相變らず前後十八臺の長列を爲して咸興平野の河を渡り林を廻り右手には遙かに白雪をいたゞいた長白山の連峰をのぞみつゝ坦々たる道を疾驅したのであつた

◇十一時五十分殿下は松の小丘に扣たれ此處に王樂寺の遺跡を見られた――王樂寺は太祖が時々行樂したところである

◇沿道は相變らず人出が多く道の左右に堵を爲してゐたが正午過ぎから長白山脈を蔽ふた密雲はトゥ〳〵ポッ〳〵!!と一箭の如く斜に降つて來た四十三分龍城嶺の絶頂に差しかゝつた時には愈々本降りになつて雨さへ激しく伴つて來た

◇一時十分からいよ〳〵金波嶺、黑石嶺に差しかゝると山脈から眼下にした谷間は數百尺、家の屋根さへ小さく見ゆる

◇折から雷鳴さへも加はつて來た、一行の自動車は危うい山の鼻をめぐつて、いよ〳〵二時四十分永興についた

◇永興發は三時十分元山は五時五十分に出で同六時松の釋王寺假の驛に著した

◇此處にも出迎人は數千人、折からの雨も厭はず松林の間に繪の如く列してゐる（十四日）

讀者文藝（一等に五十錢切手を呈す）

▲物は付『差出すものは』

○山吹の花一枝（一等）　京城　久廼家

▲高閣の晴髪　　平壤　正陸

▲當選後の襟肌　　義州　松月

▲名刺　　釜山　山本水波

▲紹介狀（選者）　　京城　春曙

●下宿屋荒し

兵庫縣養老郡伊佐村生れの西浦爲次（二七）は四月[illegible]（二十四）を詐取[illegible]けの[illegible]としたるも看破[illegible]永樂町二丁目飲[illegible]酩[illegible]治[illegible]に同家の雇女久保田たまの[illegible]枚（七圓）を攫つ拂ひ次は明[illegible]目下宿屋に僞名して投宿[illegible]

三等（百三十四名）午前八時五十分釜山大港新羅丸（一二等客[illegible]

子同[illegible]村上[illegible]故[illegible]星野政太郎、同幸太郎[illegible]

◎課題及募集規定

◎募集規程　同形の洋紙一枚に[illegible]匿名の外に住所[illegible]は一週間後[illegible]

▲用紙は端書又は紙上の雅號[illegible]別記の事▲賞品[illegible]

天氣　晴れ一時曇り　▲五月十七日（十六日午後六時迄）

商業登記公告　商號[illegible]京城地方法院開城支廳

店員募集　年齡十六歲より二十三歲位迄身體強健なる者得意廻りに至急採用す本人來談但確實なる保證人を要す　京城黃金町一丁目　三巴商會

桑種子すぐ注文せられよ　普通桑種子特價壹升二圓廿五錢[illegible]坂上產樹園

無代　自動車學校　東京市京橋區　私立認可

各種　張籠製造　大阪西區立賣堀さこば筋　田中源七

酒煙草きらいになる藥　禁酒丸　禁煙液　大阪市[illegible]森田商店

時計貴金屬　美術品製作　糸岐商店　本町二丁目

柄杓木用搗臼　足踏用　大阪市北區上福島一丁目　元祖砂川製臼所

アナタの胃病には　強胃消化錠　マーゲンシ　八木田醫學博士處方　島田藥學博士鑑查　大阪東區上本町五丁目　田畑保藥房

…旅館に止宿し十四圓餘の宿料を踏倒して逃走し本町一丁目の某古物屋に行き李羅主の名を騙りて衣類四點…の飲食をなして逃走するに際し…詐取し次は明治町二丁目…飲食店…方にて一圓十錢…

◉連絡船上陸客 五月十五日

二等（四十五名）上田こふ、同みね、佐藤庄平、神崎三、同學子、同信子、同信義、山田たね、中路民之助、大坪勝二、久保熊治、小西世三、山田幸子、原田丑一、同はつ、力彌みさり、原田頭一、同豐治、田嶋子、松原幸誠、同富美、山本龍枝、松原定子、高原龜城、中仁明、藤井利之助、同奉

三等（十五名）…次郎、市川辰子、小野友三郎、井上長太郎、宮崎龍道、宮澤達次郎、同ふつ、同英郎、茶谷保三郎、山口房吉、村松國松、龍明晋

仙境の春の夜闌けて

李王殿下のお宿は寶明堂＝釋王寺の一夜

京元線釋王寺驛は元山から十九哩の西、雪峰山釋王寺は驛の北側に屏風の如く峙立つた◈連峰の麓にある、十四日の午後六時李王殿下の轎子が雨に洗はれた松林の間を進んで行くと新綠の樹の間に白衣の出迎者が一面でそれに大きな地下大將軍の赤い額やら◈溪流やら仙境の春は殊によい、また禪房に入る前の不二門には淡紅色の欅の若葉が眼覺むる許り伽藍は泛鍾樓のあたりから壓一つ留めぬ◈清々さであつた、どさくさする間夜になつた、風呂の代りに寛から出る岩清水に冷水摩擦をやればサツと身にしむやうな雪峰山嵐!!釋王寺の夜はまだ寒い、宿は大きな眞歇殿の温突である◈十時過ぎになつてやうやう御飯にありつくと御料理といふのが昆布の油揚げに楢の新芽に、岩茸に木の葉、それに白團子や索麵、松の實の菓子なども出た、何分一時に百人ばかりのお泊りで◈上を下への混雜とのはなし、さすがに此の料理では寒山拾得の化けそこなひになり相だ吧と箸をとる、山には砂糖がないから甘いものには蜂蜜を使うといふ——これもさすがに釋王寺らしくて悦しい十時過ぎから◈五百羅漢の應眞殿で大法要が始まつた、大きな黃金の阿彌陀樣の左右に燭灯の灯影あかあかとして香燒縷々として立ち上るあたり山の坊さんが讀經してゐる、また朝鮮貴族や女官の人々が◈禮拜してゐるのも繪のやうな光景であつた、伽藍には大雄殿の前からずつと紅の鬼灯提灯をぶらさげてゐる、李王殿下は水色の周衣をよろこばれつゝ十時頃御寢になつた、大きな温突は◈大釜の飯を炊いたので莫迦に熱い、禪房の下には夜の靜まると共に水聲がいよいよ高くなつた、坊さんはこれから半里ばかりも上の奥の院に泊るといふ、途中◈轉げ落ちて死ぬやうなことはなからうかと危ぶまれる「殿下は非常なお悅びだ」と窓外のはなし聲、釋王寺の夜はいよいよ更けた（十四日夜半、禪房にて特派員）

◉仁川選擧形勢

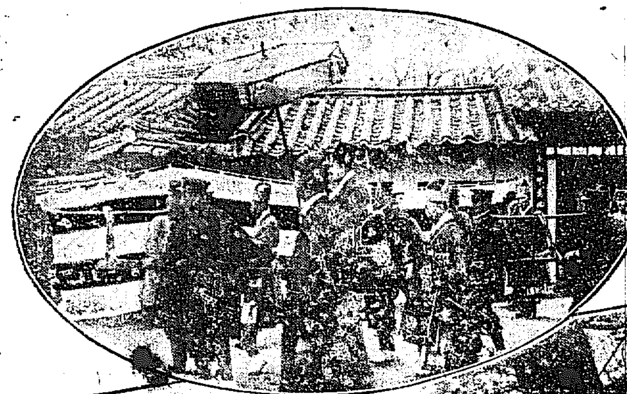
仁川學校組合議員選擧は今や白熱し既に新顔議員として運動に著手せるは河野竹之助、白神專一、後藤連平、高木助一、和田友太郎、美濃谷榮二郎、田中佐七郎、谷野文之進、濱口伴義敏、吉金喜三郎等にして就中猛烈なるは怪氏なるが同氏は縣人有志の後援を得事務所を設らへ必勝を期し居り安保氏は吉金氏の運動に從事し各方面を訪問し居る模樣なり後藤氏は當初より▽旗色を鮮明にして運動に著手せる丈けに自然各方面に手を擴げ河野氏の旨を承けたる運動員も又旺んに活動し居るを以て目下の處吉金氏との勢力は相伯仲し居れりとの噂さ高し、和田氏は十五日より各官廳及び市內有力者を訪問し谷野氏も又活動し居る者の如く佐藤小五郎氏は洞ケ峠に於て久しく形勢を觀望し居たるも確信生じたるにや十五日より訪問を開始し居れり、如斯▽新顏議員の意氣込み衝る可らざる者の如き形勢なるを以て比較的確乎たる地盤を有し居る現在員も決して樂觀を許さず、大石季吉、北島儀三、川添三次の諸氏先づ運動に著手し、稻田氏は十四日江華島より歸仁して形勢の頗る混沌たるを觀十五六日頃より▽遽かに行動を始め欧倉氏又花町宮町其他の地盤に立脚し居るを以て目下の處にて頗る有利の地位に有り同氏は多少名刺を配布したるも既に當選圏に入り得る確信を有し居る爲め別に運動を開始し居らざる模樣なり山下氏は從來理想選擧の色彩に富み居る丈けに氏自ら有權者を訪問の上▽抱負を吐露するを得策となせ共不幸にも病痾未だ癒ねざるを以て運動意の如くならざるは同情に値する事乍ら學校其他の方面に同情者多ければ落選の要無かる可し加來氏は仁川に於ける元老丈けに大勢は樂觀し得れ共何分競爭激烈なるを以て從來の如く晏如たるを許さゞる事情あり旁々近日中より何等かの運動に著手すべし（仁川）

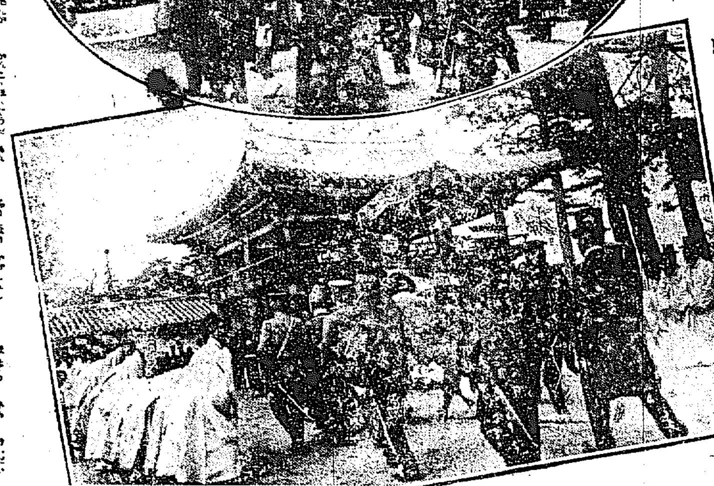
◉原田同志社大學長

同志社大學長原田博士は先般來支那各地を巡遊中なるが歸途朝鮮に於ける宗教教育方面の事業を視察する爲め來る二十一日入京二十三日迄滯在二十二日夜は南米倉町組合基督教會にて同博士の講演ある筈なるが一般の來聽を希望する由

◈咸興の李王殿下 ◇齊室を出でらる（上）

李王殿下本宮正殿の傍なる齊室にて黃の御服を召し更へられこれより正門を經て正殿に赴かるゝところ、此の時殿下は黑色の祭服に白の御襟にて頭には瓔珞の如き金線ある冠（冕旒）を召され從後垂も尊とくこれに貫ぬ石帶の色も染にて使丁のかざせる黃色の陽傘の下しづしづと內門まで進まれたのであつた、寫眞の中央輿に倚られたのは殿下、その下なるは掌侍司長、門の傍に紅の祭服せるは閔李王職長官、事務官二人は趙東潤男爵、申御附武官なり（咸興本宮にて十三日午後二時半特派員撮影）





◇本宮に入らる（中） 李王殿下は咸興本宮正門より老松の陰參差たる本宮の廣き境內に入られ今し逆池を以て名高き豐沛樓にて李朝の古き御一族及び溶派一族の人々に會釋せられつゝ正殿の表門に入らんとせらるゝ所、折から咸興平野の午後は陽炎にもゑて柳の綠り古き甍共に古典的なる繪の如き眺めである——豐沛樓は觀察使南九萬の建造せしところ王德を頌して建てたのである（十三日午後三時本宮にて特派員）

◇定和陵に向はる（下） 定和陵に向はるゝ李王殿下の轎子が今し古典的なる古代の服裝にて瑚連川橋を渡るところ橋上黃の陽傘を翳したる下は李王殿下なり猶ほ其後に續ける輿は贊侍の二人なり（十三日午後四時五十分特派員）

流行の夏羽織

朝鮮では夏コートの需用が今年あたりからチラホラと流れの兆が現はれ、これからおひおひ盛んになる傾向らしく見えて來ました、地質は内地ではこれ迄のですと殆んど▽紹縮緬に限られて居ましたが只今では紗や絽等をいろいろに利用した變つたものが試みられ、極普通のものでも織方に特殊の味はひを見せて居ます、合嬢方や若奥樣方にふさはしいのは紋錦紗や紹縮緬のしなやかなもので、一般に模樣は華やかな上にその堅の縞は、みんな紗になつて居ます、そして▽其縞の間に蝶とか、定田とか、瞬の葉、さては蘆に水、笹などと云ふ涼しい模樣を紋織りにしたり、或は丹々に金絲の縞や山藤の地紋などを織り込んだりしてあります、それから最少し涼しいのをとの好みなら全體を紗にして、其間に▽さまざまの紋を織り出した至つて涼しい上品向なものもあります、色はどちらかと云へば矢張り淡い色が喜ばれて、若奥樣や台孃向きには藍紫、紅かけ花色、紺、紫、かどが喜ばれ質素向きには、紺か黑、それでなくば青味がかゝつた茶系統などが迎へられて居ます、紋は大抵▽三つ紋の染出し、大きさは八分位な處が格好で、縫紋にするならば金糸の芥子縫ひ、金銀のぼかし、或は金に銀絲を交へたものと、凡て紋の形に應じて縫ひ方の工夫も流行つて居ます、縫ひ方は若い方が好まれます、此外に織色の紹御召紗御召などもございます

きのふのくひもの

▲比目魚のやまかけ 此の料理中では最も簡單なもので殊に上戸黨に喜ばれるものです、之は先づ新しい比目魚を拵ひ頭を拔き三枚におろし三分位の角形に切り山葵醬油に漬けます（山葵醬油は山葵の皮を取りおろし金にておろし丼様のものに入れて醬油を注ぎよく混ぜます）次に薯蕷を水洗ひし皮を剝ぎおろして擂鉢に入れてよく擂りましてから鰹節の煮出汁と醬油とを入れ擂り混ぜ味を加減を致みます比目魚を山葵醬油の中から引き上げ皿に盛りおろし薯を其上からかけ尙ほ其上に揉み海苔をふりかけて供します

商況

公債直取引（東京特電）

	十六日出來値
	八二、四〇
	八一、六〇

深川在米特電

十六日出來値	
五分引	一七四、〇四
五分中	五八、三〇四
一時四十分	一、六八五、七〇二
二時四十五分	六三

東京期米特電

十六日前場	五月限	後場
寄付	一八、五二	—
高値	一八、六二	—
安値	一八、五二	—
止め	一八、五三	—

大阪株式

銘柄	拂込額	十五日後場	前場
宇治川水	五〇、〇〇	—	—
京阪電鐵	五〇、〇〇	一三〇、五〇	—
東洋紡績	五〇、〇〇	八三、五〇	—
台同紡績	五〇、〇〇	二三七、〇〇	—
鐘淵紡績	五〇、〇〇	—	—
同上新株	三七、五〇	—	—
東洋精糖	三七、五〇	—	—
大阪商船	五〇、〇〇	二五五、五〇	—
日本郵船	五〇、〇〇	二三二、〇〇	—
同上新株	五〇、〇〇	—	—
堂島米穀	三〇、〇〇	一三四、五〇	—
東京新株	五〇、〇〇	一二七、一〇	—
大阪株式	五〇、〇〇	—	—

大阪期米特電

十六日前場	先限	中限
寄付	一七、六五	—
高値	一七、九八	—
安値	一八、四五	—
止め	—	—

下關期米特電

十六日前場	當限	中限	先限
寄付	一六、六五	一七、四九	一七、五三
高値	一六、六六	一七、六二	一七、六六
安値	—	一七、四九	一七、五三
止め	一六、八二	一七、七七	一七、七七

雜報

◉北海小豆安模樣 暴落續きの北海小豆は昨十五日の入旣は又九圓三十錢方に落ち投物現はれ暴落實氣づき高模樣との報ありたれど間もなく之を打ち消し依然形勢一變安模樣の傳報ありたり

◉價格九圓に下落

◉絹糸布賣澁る（內地）

◉八圓內外の逆鞘

◉一層賣澁り

◉早晩の此鞘縮少

◉正米界熱狂（各地正米）

◉釜山群山の如き漁同に出張盛に買入れ

◉京仁間に出張盛に買

◉日々に熱狂の度を高む

◉十七圓を唱ふる

◉京城高の動機

◉平均四割高の値高

◉可能なら鑵詰製造不

◉鑵詰類愈強硬

◉三仲買店 仁川米豆取引所 主任 西川平治郎 電話一五八長一五九番

◉硫酸銅好況

◉約二萬斤の消化

◉朝鮮地方の

◉三十二圓に

◉事情大に異

◉一圓內外の値下

◉麥酒高値影響

◉パナマ製造近況

◉白米小賣値上

◉一石付五十錢方引上

◉更幾分の値上

◉新酒ご釀造（迅速）

◉四十三萬石増加

◉確實迅速 ㋮ 廣瀨正次郎 仁川海岸町 取引所仲買人 電話六〇番一六五 六三三番

◉三巴仲買店 仁川米豆取引所仲買人 仁川海岸町三丁目 電話一二一、三二、一四一 振替口座京城四〇二

京城正米

南大門の廻穀

釜山穀物（十五日）

下關相場

仁川米豆取引所仲買人 今村覺次郎 仁川海岸町三丁目 電話三三、三六八番

白米標準値（十六日）

小賣白米

生魚市場 京城魚市場

仁川期米

▲十六日前場

休會

▲臨時休會

田中合名會社 電話長一六二八番

中風（脳溢血）症 りうまちす せきづい病 右患者自宅療法は多年中樞病症自療法專攻の京都紫田御門內川崎自療法研究所宛病名記入申込次第無料回答

質 堀佐營業所 京城黃金町二丁目入（永樂町停留所北）電話六三九番

最良の かぜつね かぜやピリン 面白い程よくきく良藥なり かぜ藥は必ず本劑を服し定て常に家庭に備ゑ少しでもかぜの氣味あらば彼是と手遅れせぬ樣直ぐ服用せよ 小兒には專用の小兒カギヤピリンあり アンチピリン アンチヘブリン アスピリン等類似の他品あり 御注意 本舖 名古屋京町二 荒川長太郎

和洋 京城本町二丁目 増田本店

春さきの御家庭に於て ヲイシイ御馳走をされるには 博多大田屋精釀の 純良醬油 に限ります 薄口で美味 殊に刺味漬物には 天下一品 キツト御家族に喜ばれます 登錄商標 特約發賣元 京城黃金町一丁目 安藤商店 電話二一番 一八五

▲京城溫度 五月十六日正午 測候所 七十度二分 最高 …

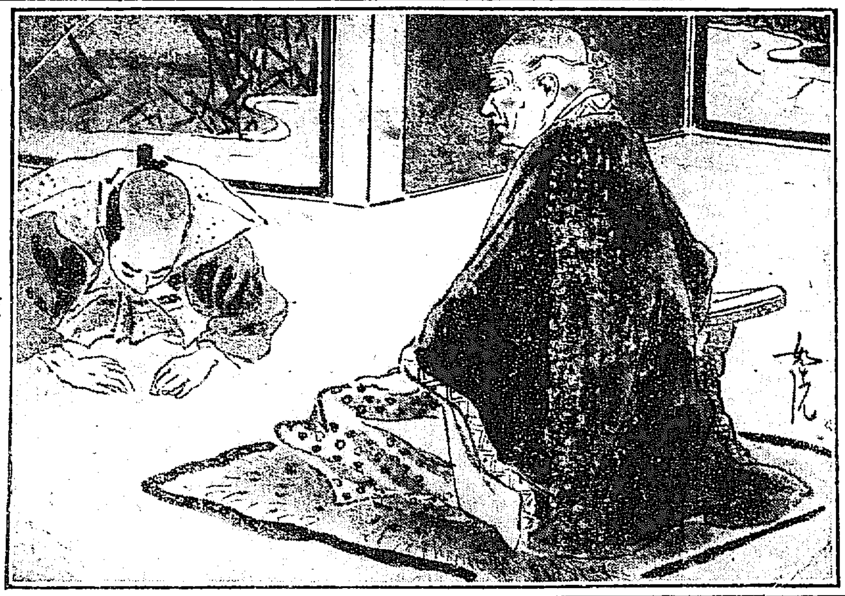
△一回週其時…同十七日 同十八日 同十九日 △下旬付『見ず知らず』同十八日 同廿日 同廿一日 同廿二日

表後一週間に捕告者には五…何日何號と明記日報編輯局諸者係 割引券又は同案發見書籍券を呈す（但…限る）△宛名は京城…

明君道中記

第百四十七席　田邊南龍口演

安藤右京進重長は僅少數の供を召連れて宇都宮城外に乘込みました、此の城外には伊達政宗が滯在して居る、大巫寺と云ふ寺に居りましたが是は政宗が家光公日光御社參のお供として將軍が石橋驛に著た其の時宇都宮城内に色めきし事ありて將軍は玆より直ちに江戸表にお歸りになつた、が政宗は只一人此の城外に留まりました、最も江戸表には病氣と云ふ届けを出した、是深き思慮あつての事で若本多家にても兵にても出す事あらばその時こそ危急の用意の爲、政宗は此處に留つた、勿論小數は引連れて居ります、處へ遽に江戸よりの御上使として安藤右京進が見えましたから政宗は玄關まで出迎へる重長は悠然として上座に通る、政宗下座して 政『御上使として御遠路御苦勞に存ずる、如何なる御用件に候や政宗謹んで承り度く存じまする』 重『此度不肖重長を以つて申し入れる事餘の儀にあらず謹んで承はれ 政『ハヽッ』伊達の家臣は何れも何事であるかと大きに心易からず思つて居りました、安藤重長は三大名を生捕りに參りましたのでございます故何も正宗に用はない然し何か思ふ事あつてか是へ參りましたが急に正宗より上意の趣を尋ねられ返答に差支へた 重『上意の次第謹んで承知いたせ 政『恐れ入り奉る、如何なる御用件にございますか 重『伊達政宗、上意の趣き餘の儀にあらず今度日光御社參仰せ出されお眼識を以つて第一の御供を仰せ付けられ、當宇都宮まで乘込み候處城内に色めきたる事あつて上樣還御石橋雲巖寺に御歸城あらせられ、然るに伊達の親子はその事を相察し、宇都宮城外に滯在仕り、段天晴れとの上意』政宗聽いた、つまらない上意があるものだ、我々が此處に逗留つて居るを褒いと云つてお賞め下さるのだが、賞めるなら江戸へ歸つて然る賞めても宜さそうなものと思ふ内に、安藤重長は上坐よりスルスルと下手の方へ退りまして愼んで頭を低げ 重『ハヽッ恐れながら將軍家よりの上使と申すは跡方もなき僞りにてござります』政宗是を聞いて何だイ是はさんざ人にお辭儀をさして置いて僞りだとは何のことだと思ひ 政『僞つて上使と申したるは理由ある事ならんが、何に事であるか 重『恐れながら此度江戸表に於て宇都宮城の騒ぎに就き種々評議を遂げられし處大久保彦左衛門の眼識を以て城内に是れある本多上野、出羽山形の鳥居左京亮、上州厩橋に罷在る平岩主計頭の三大名を生擒り江戸表へ召伴れ罷越せとの儀、弱年且小身の重長に仰付られ家の面目身の冥加有難く御受けいたし、此の處まで罷越し些かなる計略を構へて荻仲右衛門と申する者を山形へ遣はし、手前は只今より城内へ乘込んで上野介を說き遂に江戸表へ護送いたすべき



らつぱ聞こゆる 木村屋パンの(京城明治町 電二八七〇) かあちやん買ふてと坊の聲

の心底なれども上野介も却々の技倆人最早陰謀露顯いたせしことを察し何時金鼓を鳴し此處で戰をいたすも知れず然る時には手廻の同勢小勢にして迚も是と戰ふ叶はず依て御大家を御見立奉つる、何卒城内に色めいたること有之候節は御當家の軍勢を以て餘所ながら大手にお取詰を願ひ奉る、山陰中納言以來伊達家の御威勢は別段なり、その大軍を以て護衛下さるに於いては是を力として城内へ乘込み首尾能上野介を生擒り江戸表へ召伴れるの心底、小身微勢にして力足らず願くば御當家の御威勢を拜借いたして、此役成就いたすやう御願ひ申す

淋尿器科 外科一般 皮膚科 花柳病科
院長 安部修三
京城永樂町二丁目金光教會隣
安部醫院
電話四一九番

五月十八日 九曜
舊三月廿八日庚申
本命六白乾定赤口

●六白 萬にあはぬ事有る日新事見合南方は吉 ▲七赤 丁度よき日轉居旅行入學名弘求縁組商賣... [illegible]

▲書籍案内▼
德富蘆花著 小説 不如歸 價四五 税〇六
同 縮刷小説 思出の記 價六五 税〇六
井田絃聲著 小説 妻 價七〇 税〇八
京城日報代理部(振替京城三〇〇)

演藝案内

壽館 京城壽町 電話一〇〇三
▲第廿回素人淨瑠璃春季大會梅鶯會 五月十六十七二日間 ▲大功記十段目(梅壽) ▲忠臣藏六(一瓢) ▲太平記九(朝登樂) ▲伊賀越(岡崎冠笑) ▲中將姫三(花月駒助) ▲阿波鳴門八(鬼十) ▲三十三所壷坂寺(知鶯) ▲入場料下足、火鉢、番組無料

黄金館の四大寫眞(十六日より提供)
故川上音次郎先生立案 藤澤淺次郎先生脚色 天活會社新撮影 史劇 神風連 村田正夫一派大活躍
泰西悲劇 和蘭映畫 北海の灘波船 全八千呎長 本篇には實に壯大なる怒濤の沈没する場面あり其危險の業は迚も日本で寫眞で見る事は出來ません 新撮影鮮明無比
舊劇 馬追太郎助 澤村四郎五郎 市川延十郎 大車輪
抱腹絶倒 笑劇 呪の名 日本一滑稽辯士久世春濤の説明で涙の出る程お笑ひください

有樂館 東京小林商會... 早川演藝部 [illegible]

大正館 櫻井町 電話八七三 [illegible]

御成座 電話二九一 ▲辨天淨子 ▲柳生漫遊記 ▲豊臣出世鑑(浪花節) [illegible]

黄金館 電話二六三七 六五二 [illegible]

壽座 京城壽町 電話五七八番 大坂歌舞伎中村梅升一行 十七日替り藝題 ▲前 菅原天神記 ▲切 田川法界坊 [illegible]

白毛染
美しい艶々した黒髪に御染めになるなら、最も手軽に染められて一番染痛の確かな
「千代ぬれ羽」に限ります
□定價 大卅五錢 小二十錢 □全國到る處の藥種化粧品店にあり
本舗 東京日本橋區通鹽町 服部松榮堂

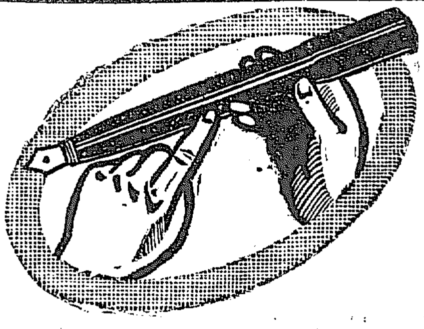
宮内省御買上品
一番良い香水と言ふ語は「原料香水 オリヂナル」の獨占なり
内外を通じて是れ以上の香水は斷じてない
僞物あり發賣元に御注意
カオール本舗 東京 安藤井筒堂

決して皮膚の荒れる事なき
使ひ心地よく芳香比ひなき
御園紙白粉 壹册 金十五錢
用紙を撰び、香料を選び、製本に注意し白粉は純無鉛の御園を用ひ、淡紅色の紙をも添へ、決して皮膚の荒れる憂ひなく匂袋の代用ともなる紙白粉はこれなり。
お買物、御散歩、芝居見物、御宴會など多人數の席へお出掛の時、手早くお顔の穢れを拭き取り、容易く化粧崩を直すに一番使ひ心地のよい紙白粉はこれなり。
本舗 伊東胡蝶園
發賣元 丸見屋商店
(71)

月やく
月やくなきに御心配の方は三錢切手封入御手紙下さい身体に害なく通經する良法速に御知らせ致ます
東京本鄕弓町二ノ三 境田けい子

わきが
ファーザーを御用ひあれ 藥價六十錢 一回にて今迄彼是と他の藥を用ひ効なき方は
京城黄金町三丁目 電話二九四九 山田文殊堂藥房

賛化病院 京城本町二丁目 電話二四番
内科 小兒科 入院隨意
無料施療す 毎日五名を限り
醫學博士 古城憲治
醫學士 上野亮藏



賣れる!賣れる!飛ぶほど賣れる!!
弊社代理部が幾多の萬年筆中より選抜し數萬の讀者より素晴らしき評判の
最新一千九百十七年式 紐育ピユーメル會社製正十四金ペン
パイン萬年筆
定價 [illegible]
發賣元 京城大平通(振替京城三〇〇番) 京城日報社代理部
陳列所 京城本町二丁目 ウツボヤ書店
自然破損は一ケ年間交換快諾
共同購入は特に割引

汽車 [illegible]

京城日報
第三版
五月十七日
(夕刊と合せて八頁)

京城日報

日鮮滿統一論(一)

鮮滿蒙統一の機運

三十七八年役の結果が、亞細亞民族の覺醒を要求し、我が日本帝國をして鮮滿蒙統一の新機運を促すに至りたるは、時勢を達觀する經世家の留意せざる可からざる所也。

吾人が茲に鮮滿蒙の統一と云ふは必ずしも軍國主義の下に鮮滿蒙を統一せんとするにあらず。世界の大勢と東亞の將來に鑒み首として我が日本と朝鮮、滿洲、蒙古との經濟的聯絡を圖り、更に進みて日支兩國の根本的方針に一致する特別利害關係の下に其の提携を圖り、統一ある政治的進歩と、統一ある産業的發展とを期し、泰西的文明に對して、東亞の文明を扶植し、世界平和に貢獻せんとするに在るのみ。

我が帝國が、東亞に於ける使命は、此の如く崇高也。世界に於ける天職は、彼が如く偉大也。日韓兩國を結合し、帝國の國是を遂行するの目的を以て、其の面積一萬四千百二十三方里の韓國を擧て、帝國の版圖に歸せしめたるも、之が爲めのみ。南滿洲と東蒙古とを以て、我が帝國の主動的勢力圏に歸せしめ、關東州を租借し關東都督府を設置するに至りたるも、之が爲めのみ。京釜鐵道並に京義鐵道を聯絡して、半島を縱貫し、南は釜山より直ちに關釜間聯絡船に由り一日二回内地との聯絡を保ち、北は國境、鴨綠江の橋梁に由り、南滿洲鐵道に直通し、釜山安東間、二回急行列車の外、釜山、長春間に、一週一回の直通急行列車を運轉し、以て朝鮮と滿洲とを聯絡したるも、之が爲めのみ。朝鮮鐵道と滿洲鐵道との相互聯絡を圖り、朝鮮と滿洲とを直通せしめ、完全なる貨客の聯絡を圖り、日鮮滿の經濟的發展に資せんことを期するも亦未だ嘗て之が爲めならずんばあらず。

顧ふに我が帝國と朝鮮、滿洲、蒙古とは、古より地理上に於て、歴史上に於て、根本的に離る可からざる關係を有せる史的事實に想到すれば、今日に當り、世界に於ける國際競爭の大勢に應じ、國防充實の必要より、經濟獨立の必要より、人文進歩の必要より、一層其の結束を緊密ならしめ、統一ある發展を圖るは、東亞永遠の平和を擔保する所以にして天職とせる我が帝國の忽にす可からざる所也。而かも況んや歐洲大戰は、曠古未曾有の變局を促し、戰後に於ける國際競爭は、益々其の劇烈を極め、其の波動の及ぶ所、東亞大局に影響する、亦小ならざるものあるに於てをや。未雨綢繆の計、安ぞ之を今日に講ぜざるを得ん哉。

遊支所感

(十四) 利權回復

漢城銀行專務 韓相龍氏談

△回復論の張本 利權の回復は阿片戰爭後李鴻章の最も主張せし處にして天津の如きは各國租界に對抗す可く支那市街の經營に三百萬圓の巨費を投じ、整然たる道路、巍然たる建築は素より公園、演技館、商品陳列場等諸般の設備完全せる狀態にて租界に遜色なし、這は李鴻章が利權回復の一策として北京大官と謀り、敷施設せるものなりといふ、然れども統一を缺げる現下の支那人にして利權の回復を圖るが如きは極めて至難事と言はざる可からず

△工廠の失敗 例せば中華の軍用靴は須らく之を自國製品に仰ぐ可しとの理想下に一昨歲皮革工廠を設立し、先づ某地方軍隊に交渉して軍靴一千足の注文を得たるに之が納入に當り該軍隊は品質不良の口實の下に其の受領を肯せず再三交渉妥協の結果漸く五百足を納入し得たる事あり、同工廠に對する無同情的態度は獨り該軍隊のみに止まらず其の他の軍團亦た何れも外國製靴を用ひて北京の靴を顧みざりし爲め同工廠は間も無く悲境に陷り果ては閉鎖の止むなきに至れり、之れ外國産品購入と内國製品購買との間には手數料の關係をはじめ其の他種々の私利的問題上多大の軒輊あるに因るといふ、以て其の一班を推知し得可し

(十五) 長江筋に於ける列國の勢力

△支那の寶庫 支那は世界の大寶庫たると共に長江沿岸即ち中部支那はまた支那の一大富源地たり同地方は支那の中心點にして經濟上同國の全生命を掌握するの地位を占む、而して其の代表地は素より上海なり、同地は百六十一年前羅馬宣教師に依りて初めて世界に紹介せられ爾來列國の垂涎措かざる處なりしが後七十七年即ち西暦一八四〇年英支阿片戰爭の結果、南京條約に基き之が開港を見たり、夫れより支那は列強との條約に依りて漸次長江沿岸を開港し其の數今や十數港を算するに至れり

放浪漫記

大谷光瑞

三月二十一日新嘉坡に於て

(承前、完)公益埠に近くして一の水流を横斷す。鐵道資金の關係上、橋梁を架設する能はず。距離は一千二三百尺なり。故に鐵舟に列車を乘じ兩岸より繋げる鐵鎖を舟中に於て、ウインチを用ひ、之を捲き往返す。而も潮に滿干あるを以て、陸上の鐵軌を固著すべからず。故に木を架しスリッパーの下に積み、高低を調節せり。公益埠は、近時築ける所、最新版の支那地圖に非ざれば、其名を記せず。全市米國より歸還せる、僑民の資本により建造せる所、街區は十二尺若くは十五尺にして整然たりと雖も、家屋亦數層の高きに及べるもの少からず。電灯を點じ、稍面目を整ふと雖も、不潔汚穢に至りては、更に他の市鎭に異ならず。前面水流あるも、素より深喫水の汽船に適せず。若し其れ如此き新經營を施すの勇氣あらば其地點の選定の誤れるを遺憾とせざる可からず。翌日江門に歸り宿す。江門は繁盛の市鎭にして、人口十五六萬を有す。條約港の一なり。然れども深喫水の汽船(十二尺を指す)は近くべからず。故に二哩を隔つる西江の本流の北街を以て、江門の稅關を置けり。翌十二日江門を發し、西江を下り、澳門に著す。澳門は昔日の繁盛なく、唯賭場に依り生存す。十三日午後香港に歸著致候。廣東珠江のデルタと、揚子江下流のデルタとを比較するに、全然別樣の觀あり。下揚子江は蘇州附近を除けば、殆ど山なく、時に點々するも、多くは一望千里の平原なり。珠江は然らず。丘山起伏連續し、河流縱横之を縫ひて貫流す。蓋し往昔は數百の島山たりしを、珠江西江の土砂により之を壅塞し、終に一條の水流を殘すに至れり。故に島と島と相接し一の平陸を形成せしが如し。唯西江最も大にして土砂の流下多きを以て、西方先づ壅淤し、東江水淺きを以て、珠江の前面は猶廣濶の水道を殘せり。若し其れ天然に放任し、數千年を期さば、香港亦大陸の一角たるも期し難きに非ざるべし。伊豫丸は十四日入港の豫定なりしも、滬上濃霧の爲め遲延し、十五日入港し、十六日正午出港せり。前日の濃霧は、下揚子江に在りし淺薄なる低氣壓の爲め、偏南東風を起せしによりて生じ、低氣壓の東走と共に、偏北風に轉じ、十六日午後の如きは、北東信風猛威を振へり。爲に船は動搖甚しく、食卓又木框を附し、器物の顛倒を防げり。

廿一日午前錨地著、雨霽れ綠陰滴らんとす。常夏の風光又人意に適せり。小生は當分當地に滯在の考へに御座候。陶靖節亦歸去來を賦す。田園の趣味は政治實業等に沒頭せる諸士の解する所に非ず。猶頹大の譏誚林、亦小生を養うて、凍餒の患を免れしむ。小生の如き、百不能の弱骨なるは、白蟻の如く樹液を吸うて、生活を爲すを最適とす。謹んでヘヴエアブラジリエンシスに感謝の意を表す。獲時より致獲せし弟子等、小生を圍みて團欒久濶を敍す。一幅五柳先生の圖、披きて前に在り。夫れ濃綠の林下、椰子を彎きて、其清水を飲み、肱を曲げて涼風に高臥す。吾の隱する所に非ざる大戰の如きは、帝鄕の諸君子に何ぞ語を寄す。政爭煎熬の中を去りて、此の極樂中に徜徉せざる。惡詩あり。曰く 遠謫不愁買生鵩。投荒何覓伏波鳶。帝鄕與我永交絕。椰葉林間送暮年。

南洋見物

淺岡重喜(投)

(17) 日本人の活動振り

遺利寡きたる常夏の南洋諸島に、勇敢なる日本人の接觸したのは、星霜四百年の昔である、當時南洋に於ける大膽なる幾多日本人の偉業壯圖は吾人史を繙くたびに肉躍き、血湧くを禁ぜぬのである、後に幕府の鎖港政策に依て、我國民の海外發展の鋭鋒は餘儀なく阻止せられ、勇敢なる大和民族をして、空しく蝸牛殼の小天地に惰眠を貪らしめ、逆に千載の好機を逸せしめたのは返す返すも遺憾の事である、其後天與の機會を自覺したる我國民が海外に發展する樣になつたのは今より十年以前の日露戰爭前後からで、明治三十二年新嘉坡に始めて日本領事館が設立せられ四十二年に瓜哇のバタビヤ領事館が開かれ、又比律賓のマニラにも之が館設を見るに至り、南洋渡航者の數も追々と增加して來た[illegible]新嘉坡の居住者は娘子軍を第一位とし之に隨して生活せるもの尤も多く、其他雜貨商、醫師、齒科醫、寫眞師、按摩、大工、洗濯屋、天麩羅屋、蕎麥屋、しるこや、菓子屋、すしや、料理屋、旅館、理髮屋等であるが、之等に[illegible]ふ缺けて居るものは[illegible]

[illegible]三井物産に次げるものに[illegible]大阪の乙宗商店の支店である。乙宗商店は[illegible]日本よりの輸入品は[illegible]雜貨である[illegible]乙宗商會と相前後して[illegible]

草餅

五の日十の日會

○外出の仕度のながい草餅って 浮碧樓

○餅の草ザッと洗ひ蓬になり 坡卿

○草餅よろこび庭掃いてかへる 烏堂

◎最新最良の中學講義錄に就て學べ◎新入會者既に五萬人に達せり◎

大日本國民中學會

小學校卒業生 將來の立身出世を期せよ 日下入會の最好期なり
この講習に最も適せる本會發行の講義錄に就き中學の學びて

講義錄規則書進呈 見本つき 中込次第

會長 尾崎行雄
學監● 遠藤山内文學博士 理學博士
顧問● 新渡戸和田博士 垣博士 三宅浮田 博士

第廿七回 新學期開講
各種 大特典提供
詳細は本會規則に就て見よ
東京…
大日本國民中學會

於東京奠都五十年記念博覽會
弊社謹製品
朝鮮鐵道ホテル及食堂車專賣
口付 雛林は
畏くも
宮内省より
御買上の光榮を賜はれり
東亞煙草株式會社

於東京奠都五十年記念博覽會
弊社謹製製革は
行幸の當日 辱くも
賜宮内省御買上の光榮
茲に謹而顧客各位に謹告仕候
永登浦 朝鮮皮革株式會社
京城南大門通 朝鮮皮革株式會社販賣所 電話一〇八番

五月二十日より
○懸賞募集(夏衣用)裾模樣圖案陳列
曩に東京本店に於て賞を懸け募集致候圖案の内優秀なるもの三十餘種を御覽に供し候
同日より三日間
○新柄夏向半衿陳列會
夏の御粧ひに相應しき新柄多數取揃申候
京城本町 三越呉服店

[illegible]十四日[illegible]三千四百[illegible]出來たり[illegible]氣配は[illegible]商人組にて各地方より買持入り込み來り居る等正米市場は熱狂的盛況を呈へ居れり
△滿州大豆 九圓二十錢同小豆八圓二十錢等にて[illegible]用來たり

王古元等の匪巨頭と折衝して十四日奉天出發、歸朝したるが氏の談に據れば[illegible]全なる[illegible]立する[illegible]りそれ[illegible]富なる該鑛[illegible]東鐵[illegible]他の[illegible]する筈なり

[illegible]及び奉天省長に於て延期問題に[illegible]する以て[illegible]決定し[illegible]七[illegible]行の[illegible]ある奉天興業銀行は突然來るべき[illegible]たる官營に[illegible]ふ三週間休業する旨を

◎飛降りて負傷 十五日午前十時頃京城[illegible]株式會社の龍山行五[illegible]

支那の形勢

▲非戰派議員の魂膽

段總理今後の行動は一に國會の議決に依りて決す可く參戰反對議員の多數は表面反對投票を爲さゞるも國會に出席せず定員未滿に依りて參戰案の通過を阻止す可しと（北京特電）

▲段總理通告事情

內閣は十四日會議を開きたるが海軍、財政、兩總長其他全部參列し農商總長谷鍾秀氏は參戰政策に關し內閣は何等かの決定的行動を執り議會に答案を求む可しと提案し內閣は之に基き『內閣は五月七日對獨開戰を決議し國會に賛成を求めたるも未だ回答に接せず至急回答を要求す』との通告文を國會に送れり（北京特電）

▲段氏の總長留任懇請

段總理は黎總統に對し張司法程海軍谷農商伍外交四總長の留任を懇請せり（北京特電）

◎日本陰謀說否認答辯

ロンズテール氏は英國下院にて日本の西伯利亞侵略說に就き質問したるに藏相ボナー、ロー氏は是を否認せる答辯を與へたり（倫敦電報）

◎米戰時追加豫算可決

未曾有の巨額、商船建造費は四億弗

米國上院委員會は總額三十三億九千百萬弗の陸海軍戰時追加豫算案を可決せる旨報告せるが右は未曾有の巨額にして商船建造費四億弗も其の中に含まれ居れり（華盛頓電報）

◎英軍ス河北方に進出

ヘーグ將軍公報に曰く我軍は十四日引續きスカルペ河北方に進出を繼續し過去一個月間爭奪戰を繼續せる地點の占領を完全にしたり尙ガヴレル北方戰線にても少許の前進を爲したり（倫敦電報）

◎上院議員新任

十六日左の通り任命ありたり（東京特電）

正四位勳一等　荒井賢太郎
正四位勳二等　中村是公

貴族院令第一條第四項に依り貴族院議員に任ず

新任貴族院議員　度支部長官荒井賢太郎氏

◎安達公使任命

十六日左の如く任命ありたり（東京特電）

特命全權公使　法學博士　安達峰一郎
自耳義國駐劄被仰付

◎總監撫順視察

山縣政務總監は十五日滿鐵改野理事の案內にて撫順炭鑛に赴きたるが元氣頗る旺盛にて各部に就き精細なる視察を遂げ其規模の廣大なるに感嘆

◎佛軍總司令官任[illegible]

[illegible]ペタン將[illegible]

…夜奉天に歸着十六日日支官民多數に見送られ嚴重なる警戒の下に出發歸任の途に就けり（奉天特電）

◎宇垣少將北行

陸軍少將宇垣一成氏大佐原鐵三郎氏同金谷範三氏等の一行十六日午後十一時發列車にて北行せり（釜山特電）

◎辭令

十六日左の通り辭令ありたり（東京特電）

兼任朝鮮總督府編輯官（七等）　京城高等普通學校教諭　三國谷三四郎

◎下關の東拓披露宴

東拓總裁は十六日朝下關着同夜主なる官民を春帆樓に招待し盛大なる同社下關出張所披露宴を催し十七日東上す可し（門司特電）

◎敷よりも質に

―重きを置く對人勸誘―

高瀨東拓理事談

久しく慶尙南北兩道地方に出張中なりし高瀨東拓理事の視察談片に曰く慶尙道方面の地價は最近

▲幾分上向きの傾向を呈しつゝあるやうだ、これ內地方面の資本が朝鮮の土地に放下されだしたのと鮮人で餘力のある向が比較的安値な土地の買收を初めたゝめらしい、又東拓移民の方は出來得る限り各地に收容された移民の戶別訪問を試ろみ其の實狀並に希望等を聞いて見た、要するに會社で貸附した土地を眞面目に耕作し餘力を農家の副業に注いでゐるやうな者は天災に遭遇せざる限り其の生活は必らずしも苦境に陷入つてゐない、色んな苦狀や不平を云つてゐるのは忠實に營農に從はず又適當の副業をやらぬ連中のやうである、そこで今後の移民は餘程希望者の人撰に注意し確實な粒の好い人を收容せぬと會社の期してゐるやうな效果は擧げられない、それには今年より實行しつゝある移民の

▲對人勸誘法　による外はない、尤も移民の人撰を嚴にすれば自然其の數は減ずるかも知れない、然し減じても半ば烏合ゴロ的の人物を交せて多く容れるより殖民經營上好いに定つてゐる、各地に於ける農資金水利灌漑資金の需要は今後益々殖に來るであらう、之れに對し會社は便宜に低利に其の融通をなす方針だが最近も從來狹くて低かつた出張所長の權限で貸出し得る金額を擴張し又利下や鑑定料の引下げに關し周知の方法を執つた云々

◎工業生產增進

京城府內に於ける現在民營工場は三百八にして其の資本金額五百四十三萬五千百七十八圓從業者數七千七百八人年產額九百九十六萬二千八百七十八圓なり其の主なる工業製產品は煙草、精米製粉麵類、器具機械皮革煉瓦並瓦陶磁器家具菓子飮料水染織機業染料製服印刷及び活字瓦斯及電氣瓦斯釀造精製金銀細工等にして工場建坪一萬六千七百十二坪（前年度一萬五千二百四十）（從業者の中內地人一千六十五人鮮人六千五百九十八人外國人四十五人合計七千七百八人）（前年七千三百十八人）なり而して生產品價格の如きは前年度の七百五十二萬七千六百十五圓に對比せば約二百四十三萬五千三百圓の增加にして資本金の減少より推せば著るしき生產增加と謂はざるべからず工場數の如きも前年度に比し百八箇所の增加を爲し居れる現況なり以上は總て職工五人以上を使役し居る工場のみにして此他大小無數の工業製作所あり將に京城府が製造工業勃興の機運に乘じ逐年生產能力の增加を見るに至りたるは賀すべき現象と謂ふべし

◎組合選擧と法規

京城學校組合議員選擧期日も漸次切迫し各候補共大いに暗中飛躍を試みんと作戰をさ〳〵怠りなき有樣なるが選擧人側の關係よりは今尙ほ組合費未納等の關係に在りては自己の選擧權を行使し得るや否やに就き疑問を抱けるも少からざるが此は單なる未納のものは依然選擧權を行使する事を得るも滯納處分手續中のものは選擧當日に於て選擧權の行使を差止めらるゝものなり尙ほ選擧に關する法規を摘錄して參考と爲すべし京城學校組合[illegible]

▲第四條　獨立の生計を營む年齡二十五年以上の男子にして一年以上引續き組合費五圓以上を納むる者は組合議員の選擧權を有す
但し禁治產者準禁治產者及六年の懲役又は禁錮以上の刑に處せられたる者は此限りに在らず

▲第五條　選擧權を有する者組合費滯納處分中は選擧權を行使する事を得ず家資分散若は破產の宣告を受け其確定したる時より復權の決定確定するに至る迄又は禁錮以上の刑の宣告を受けたる時より其の執行を終り若は其の執行を受くることなきに至る迄亦同じ
陸海軍の現役に服する者は選擧權に參與することを得ず其の他の兵役に在る者にして戰時又は事變の際に召集せられたる時亦同じ

▲第六條　選擧權を有する者は被選擧權を有す
但し左に揭ぐる者前條第三項又は第四項の場合に在らず
一、所屬道及び府の官吏
二、本組合の吏員
三、檢事及び警察官吏
四、神職僧侶其の他諸宗教師
五、小學校又は普通學校の教員

◎仁川の選擧界

候補者の顏觸如何

候補者の旗色鮮明となり從つて運動も激烈を極めつゝ有るが十六日の午前迄に候補として確實に認められたるは稻田、阪倉、北浦、川添、加來、淺井、大石、山下、美濃谷、田中、後藤、高木、伴、和田、濱口、白神、平山、松田の諸氏にして宅保辻川其の他の後援に依り運動に著手したりと傳へられたる吉金氏は十六日に至り固辭し谷野氏は周圍の勸誘に基き立候補の念あるも稅關長未だ歸任せず勞々立候補の聲明は勿論運動にさへ著手する事能はざる旨斷言し居れるが後援者側は到底現下の情勢に對して默視する事能はず何等かの下準備し居れるは想像に難からず佐藤小五郎氏又十五日に至り逐鹿塲裡に打つて出でんと[illegible]漏らしたる由なるが[illegible]に著手したる[illegible]には地盤其他に於て多少侘傯たらざるを得ざる事情あり勞々立候補は慮ならんとの說高し日本曹達會社の茂木氏は十五日に至り突然立候補を發明し第一著手として取引關係者及び基督教徒其他の方面に運動を開始したるが順次他方面に手を擴ぐ可し（仁川）

◎間島視察團

日程變更す

十七日午後入京すべき間島鮮人視察團の視察日程は此後多少變更を來し十六日左の通り決定したりと

▲十八日　午前總督府、警務總監部、商品陳列館、午後京城郵便局、朝鮮銀行▲十九日　午前土地調查所、濟生院育嬰部、盲啞部授產製糸場、午後東拓會社、京城日報社▲二十日　午前水原行、原種場、農林學校、勸業模範場▲二十一日午前京城醫院、午後南大門著▲二十二日　午前京城監獄、高等普通學校、女子高等普通學校、同附屬校、午後東亞煙草會社▲二十三日　午後總督府醫院、中央試驗所▲二十三日　午前龍山兵營、京城監獄、午後景福宮▲二十四日　午前永登浦行、朝鮮皮革會社、午後仁川行仁川府廳、築港、觀測所▲同夜京城出發

◎全鮮公醫講習會

警務總監部にては六月四日より十四日間各道より二名の公醫を召集し全鮮公醫講習會を開催す可し

◎京城軍人會總會

在鄉軍人會京城分會にては來る二十日午後一時より獎忠壇に於て定期總會を開き同時に武術會をも催すべしと

◎朝鮮藥學會例會

來る二十七日午後七時朝鮮藥學會にては京城商業會議所樓上に於て恒例會を開催す可しと

◎村田重吉氏東上

採木公司前理事村田重吉氏は十五日安東出發十六日朝南大門驛通過東上したり

◎培材學堂修學旅行

在京城私立培材學堂職員生徒三百五十名十六日午前九時南大門驛發列車にて開城に向け修學旅行を擧行せり

◎荒井氏東京宿所

別項東京特電の通り這回新たに貴族院議員に任ぜられたる荒井度支部長官の東京宿所は『小石川區金富町五六』なりと

人事消息

▲向坂榮三郎氏（水原模範場技師）十六日著京浦尾へ▲松井房治郎氏（全北第二部長）同上▲小林織衞氏（東京三河屋總本店支配人）同上▲乾政彥氏（法學博士）十六日朝退京▲久我清彥氏（鮮銀安東支店長）同上▲西村聖藏氏▲岩佐元十郎氏▲田中駒太郎氏▲谷藤太郎氏▲村谷庄夫氏（以上大阪鑛物組）十六日夜退京

南岳北語

獨逸が敵の詭謀を巧みに捉へ來つて自國の內政上や外交上に利用するのはたしかに一枚上だ▲獨帝や宰相ホールウェッヒなどが白耳義の蹂躙や開戰の責任を▲矢ッ張り此の手で英國に轉嫁しやうとして居るのは最早明白な事實だ▲之れも其の一例で過般米國が對獨宣戰を決定した時▲獨逸は恰度第六回軍事公債の募集をやつて居たが▲サア來たと許り米國の宣戰を極力利用して國民の財貨を絞つたものだ▲諸新聞紙が其の際使用した奇拔な文句を摘記して見ると▲財布を投げ出せよ之がウヰルソンへの最も適した應酬である▲亞米利加は今秘密の敵ではなく公々然たる敵である▲開戰の口[illegible]▲獨逸の金力に傾注するに過ぎない▲獨逸の國民性格を知つて居たらこんな無謀は企てなかつたらうに▲など巧に利用して何處迄も勝利を信じて居る樣に見せかけたのは先ず平凡として▲最も奇拔なものになると斯う云ふのがある▲或村役場の吏員が金持の婆さんを勸誘し投資の安全なことを諄々と諭すと▲婆さんは『だが亞米利加が敵の方についたのでないか』と不平顏をした▲吏員先生直に『だから金がいるナ―ニ婆さん心配はいらぬよウ―潜航艇が直に片付けてしまふから譯は無いサ』▲何の造作もない樣な答へに婆さん大喜びで早速虎の子を出して『では之れ丈け』▲何うして斯ふ云ふ駁取は獨逸のお手のものだ▲日本郵船の重役賞與は普通臨時合せて三十五萬圓とは大きい▲別に近藤社長が七萬圓（年十四萬圓の割）須田副社長と林總務が各六萬圓（年十二萬圓の割）▲伊東、伊丹兩專務が各四萬五千圓と云ふ割合である▲先づ日本一の賞與取たると共に外國にも餘り例がないとは船なる哉だ

支那遍歷

中島生

濟南（上）

山東の省城濟南府には四日朝到著し、其夜曲阜に向ひ、五日夕立歸り六日朝青島に出發したれば、一日一夜の滯在に過ぎず候。到著の朝は、旅亭津浦線停車塲より程遠からぬ、金水舘に一先づ落付き、朝食後、商埠二馬路なる日本領事舘を訪問し、林領事に面會致候。林氏は自信力強き一箇の快男兒の如く見受けられ對談するに其の應酬甚だ的確にして、氣持ち良く感ぜられ候。

午後は濛々たる沙塵を冒して正金銀行、三井洋行等を訪ひ、轉じて三原例の製銅工塲を見物致候。工塲は例の制錢を鑄潰す所にて、設備は頗る簡單に候。十箇程の爐を据ゑ、骸炭の火力を以て匣錢を熔解し、之を一定の鑄型に流して長方形の銅塊を造り出す丈けの作業に過ぎず。銅價騰貴にて常時百斤二十五六弗、四月三日入電の日本相塲は三十六圓なりと云へば、制錢業者は餘程儲かり居る譯にて、其れも其筈に候。早い話が、濟南の貿易は年々輸入超過のところ、昨年の如きは輸出超過にて、其の原因は制錢輸出の激增に在りと申す事に候。而して昨年中青島よりの制錢輸出は五千萬圓に上ぼり由也。然かも山東省內には、なほ多額の制錢が藏存せられ、人口三千五百萬、假りに一人平均三圓宛を所持すとしても、一億餘圓に上り申すべくたるに似たり。雖然、支那官憲の制錢買連中の活動は餘裕綽々尙此上制錢の輸出に對する神經は、近時頗る銳敏に赴き、濟南邊りにては、屢々面倒なる問題を惹起し居り候。日本人が巡警と衝突せりとか、野盜の爲めに掠奪せられたりとか云ふ事件は主として制錢買ひを中心として起り居り候。支那人の方にも亂暴の仕打ちもあるべきが、此種邦人の態度も亦甚しく不穩當惡辣なる嫌ふ能はず候。兎角日本人は、自分さへ利すれば、相手はどうでも宜しと云ふ遣り方にて、如何にも支那人間に受けが惡しと云ふ。故、自國共益主義に限り申候。從つて制錢買ひの先生等も、無闇に大和魂を誤用惡用して、與地の支那人に對するが如き亂暴を愼しみ、多少は與乙に掬んだ所で悧巧にやれば、大した間違も無く、血腥い事件も起らずに、先づは圓滿に事が運ぶなるべきにと存じ候。獨逸人なぞは、夙に制錢に手を染め居たりしが、彼等は如才なく此間の呼吸を吞み込んだ積りにて、事に當りしため、支那官憲なども、餘り面倒なる事は申さゞりし由に候。或は之れ鑑みるべき事にはあらざるか。

聞くが如くんば、濟南附近に居る日本人中には、日本人として外國に居る者の中にて、一番ヤクザ者が多き由に候。兎に角處々方々を喰ひ詰めて、流れ流れて青島陷落後の山東を喰ひ塲に集まり來れる者が、時局の爲めに銅の騰貴に付け込んで、命懸けでも制錢買ひのボロイ儲けに有り付かむと、血眼になつたる事なれば、人氣の惡きも當然にて、我が在濟官憲に於ても、可なり手古摺り居るが如く、少し說法めいたる事でも言ひ出せば、反對に尻を捲つて坐り込み、領事舘を燒打ちにするとか領事を打ち殺すとか騷ぎ出すこともありとの由、これは在留の友人より聞及び候。支那商人に日本人の信用なきは殆と極端にて、城內の吳服店に到り、品を求めんとするも、現金を出して置かねば、現物を見せぬといふ始末に候。餘程日本人には懲りたるものかと存ぜられ候。不選の徒は少數にても、不信用は濟南在住邦人全體に及び申すべく、實際眞面目に業を營む同胞に對しては、氣の毒に候。日支親善の實を擧げ、眞に支那經濟的發展を期せんとせば、先づ在支那邦人中の不選の徒を取締る事が肝腎に候。獅子身中の蟲は速かに驅逐するを要す。啻に濟南とのみ謂はず。蟲は隨所に喰ひ入り居る笑生也。

[illegible]（一）ア[illegible]何等利[illegible]受けず（二）[illegible]者は三月にして其の最なるものは朝[illegible]の製造に係るものなりと▲家屋稅制七日頃より捕立に從事すべし▲巡回生產高約一千圓に過ぎざるも原料頗る豐富にして紙質又頗る良好なるを以て[illegible]に於ては林業獎勵の必要上不日技[illegible]の業任を見るべく目下道廳に[illegible]

◎支那選手歸國

政七並に其の[illegible]に斬り付け重傷を負せたり[illegible]

簿記募集　通學生　寄宿生　校外生
大正六年新設記念特待募集　東京市芝區櫻川町十一番地
法學士　鑒閱　藤沼武男氏著
私立認可　日本簿記專修學校
[illegible]

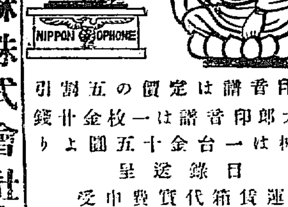
（最新刊）**袖珍 朝鮮行政警察法令全書**
本書は法規警察官の教科用兼執行用として編纂せられたる者にして携帶至便紙數五百有餘頁收むる法規百三十有餘重要なる朝鮮行政警察法規は擧げて網羅せり[illegible]
發行元　京城本町一丁目　大阪屋號書店　振替京城二五七

各種萬年筆即時修繕　京城旭町二ノ六　東京パイン萬年筆出張所

夏物　**硝子器各種**（製造）（卸小賣）
右安價販賣仕候尙付多少に拘らず御用命の程偏に願上候
進物用コップ御名入　ハイ取器其外食器類一式御好應可申候
京城林町一六二番地（黃金町四丁目派出所北へ入る）電話二七九
小野玻璃器製造所
京城鐘路二丁目角　電話二八七九番
小野玻璃器販賣所

三ツ矢の三大特色
一　御料品製造　の特別なる恩命を拜受せる事
二　天然炭酸瓦斯　純良にして豐富なる天然炭酸瓦斯噴出する事
三　胃腸、糖尿、腎臟、氣管、婦人病　に特効ある鑛泉にて壜詰する事
以上の三大特色は他の清涼飮料水にはありません
御大典記念飮料　宮內省御用達　**三ツ矢サイダー　平野水　コローナ**

內科　小兒科　入院隨意
京城府龍山元町
[illegible]野醫院
電話二〇四番

五月號新音譜全部著

桃太郎印音譜は一枚金廿錢　鷲印音譜は定價の五割引　器械は一台金十五圓より
目錄送呈　運賃箱代實費申受
京城本町二丁目二九
日本蓄音器商會
[illegible]

帝國製麻株式會社製品
東洋木材防腐株式會社製品
營業品目……麻、綿、ズック、ダック類販賣　和洋麻綿毛織物及製作品、鐵道貨車雨覆、天幕、雨覆製作請負、並にズック製作品一式
特許品（木材防腐劑）クレオソリーム　クレオソート　東洋木材防腐株式會社製
朝鮮特約販賣店
京城府龍山元町二丁目五十七番地　電話二八八
村松武八商店

黒龍無税請願（いづれも（倫敦電報））

依り地方の行政執行部代表大會は數日前左の理由の下に黒龍州を無稅地となさんことを…し此旨請願せり（哈爾賓）

御疲勞の色も無く

□李王殿下御一行の御歸還

八日振りに恙なく成興本宮御展謁より

去る九日より成興本宮御參拜の爲め北鮮地方御旅行中なりし昌德宮李王殿下は既報の如く十六日午後六時二十五分南大門驛著臨時列車にて歸京されたり停車場には

□長谷川總督 秋山軍司令官立花師團長古海總務總長白水軍參謀長大屋鐵道局長官其他の官民朝鮮側よりは各貴族內人等百數十名プラットフォームに整列して著車を待つ

□列車は豫定の刻限を誤たず定刻に及ぶやがてプラットフォームに著き殿下は贊侍の肩に扶けられて特別列車よりプラットフォームに降り立ち先づ長谷川總督に御出迎へを謝して握手を交され次で

□秋山軍司令官立花師團長古海總長と握手されたる上迎の朝鮮貴族に會釋されて驛貴賓室に入らる殿下には御誕生後始めて八日間の大旅行を遊ばされたるに拘はらず甚だしき御疲勞の色もなく

□自から御足を運ばれて貴賓室を出で昌德宮より迎への馬車に乘られ御同行の李堈公殿下に於ても御疲勞の色なく長次官以下隨行諸員を隨へられて驛を出で途中

□德壽宮を訪ひ歸京の御挨拶を述べ御旅行中の御物語りをせられて後昌德宮へ御歸還ありたり南大門驛前通り及び太平町通りは御歸京の模樣を拜見せんと夥しき朝鮮人道路の兩側に人山を築きたり

◆李王殿下御歸著（十六日午後六時廿五分南大門驛にて）

子爵の緣者と稱して豪遊

大阪市西區千島町鑄物商德永彌太郎（三）は渡鮮の上古金物を買ひ集め內地へ移出して一儲せんものと去る十一日釜山に上陸し同夜十一時頃綠町一丁目安樂亭に登樓し自分は地方觀察の爲來釜せる者なりとか大阪の金子子爵の緣者なりとか途方も無き大言を吐き自ら帳場に赴きて酒肴を命じ藝妓を總揚げして飲めや唄への大盡遊びを爲したる後同樓を立出で觀氣樓日韓樓等にて騷ぎ廻り最後は同樓より七名の藝妓を引き連れ最初の安樂亭へ立戻りたるが更に遊興費を支拂はず屆出でに接し其の筋より係官來り彌太郎を拘引して取調べたるに前記の如く鑄物商なる事を自白したるが同夜登樓して費消したる金額は安樂亭六十二圓五十錢餘日韓樓二十九圓九十錢電氣樓三圓七十錢合計九十二圓餘に上り懷中無一物なるより直ちに留置し目下嚴重取調中なり

四明翁逝く

京都に於ける獨逸學の先輩にして且つ俳壇の耆宿として知られたる中川四明翁は十六日朝逝去せり享年六十歲（大阪特電）

郵船株僞造 未遂者捕はる

大阪府下豐崎町村田豊一は東京市橫山某の依賴にて日本郵船株を僞造せんとして發覺し十六日東署に逮捕されたり（大阪特電）

軍紀保護違反

新舞鶴水上作次收監さる！ 新舞鶴の水上作次なるものは軍紀保護法違反に依り十六日朝收監されたり（大阪特電）

畫家割腹す

愛媛縣高山村畫家山良再造（四十）は大三社村神社神前にて十六日朝鎌にて腹を切りたるが生命危篤なり（大阪特電）

捲上て情婦へ

京城平洞生れの前科一犯金雲燮（三〇）は四月二十六日午後十時頃鍾路三丁目布木商金舜濟方に行き客の風を裝ひ綿布外十點（三十二圓餘）のものを自宅迄屆け呉れ代金は持參の上支拂ふべしと情婦方なる觀水洞金貞德方に連れ行き主人不在につき代金は明朝支拂ふべしと稱し件の品物を騙取して情婦金姓女に交付して兩名共姿を晦ましたるを手初めに同樣手段を以て外二箇所の鮮人より反物雜品を騙取し此程本町警察署に檢擧さる

汽車衝突事件判決

鐵道院東北線古前に於ける汽車衝突事件は十五日判決言渡あり津矢森助役は懲役五年に處せられたり（東京電話）

國有林を盜伐

江原道通川郡崔一面通川里元同面々長文炳恒（五〇）は昨年十月公立普通學校の建築用材松百五十本（四萬才）を國有林より採伐するの許可を得たるより之れを奇貨とし同面河水里朱基熟（四一）新興里朱東煥（三五）龍川里張性煥（四五）と共謀し十月以降本年四月上旬迄に數十名の鮮人樵夫を使役し崔一面麻田里の黃龍山國有林より松の木一千五百本（一千五百圓）を豫定以上に盜伐し元山の材木商に賣込まんとしたること此程發覺し關係者は何れも通川警察署に檢擧されたり

高田川死去す

大阪相撲協會取締高田川は既報の如く病氣中の所十六日朝病革まり午前十一時死去せり享年六十三歲大阪に於ける顏役として聲望ありし者也

（醸造高は六百五十一石六斗八升…にして內江原に釀造するもの…十二斗七斗三升三合にて他は多少…濁酒釀造あるも殘餘は朝鮮酒造合社）

夏場所

▲六日目の勝負（十六日午後十一時半發電）

勝	負	勝	負
鶴ケ濱	大御	白岩	時ツ風
峰櫻	黒雲	朝見藤	稻葉嶽
若常陸	玉の川	峰の森	玉柳
高千穂	手柄山	國ケ岩	八重高
成瀨山	中の川	浪泉	殿り
三杉磯	金龍	大の里	朝綠
大門岩	若島	彌高山	鳳柳
琴ケ浦	清瀨川	綾川	休鳴門洋
柏戸	小常陸	大戸平	大の高
明	駒泉		
千葉崎		常の花	
紅葉川	釋迦嶽	九州山	石山
兩國	土州山		
栃木山		伊勢濱	
鳳	休	一港	

△中入後

勝	負	勝	負
遠の矢	八甲山	岩木山	鶴渡り
龍ケ崎	浦の濱	宇都宮	藤の川
大潮	敷島		
宮城山		錦島	
逆鉾	眞砂石		
對馬洋		黒瀨川	
朝潮	源氏山		
大鳴門	はたきこみ	大錦	

右の內▲大門岩に若島は大門一氣に寄倒して勝▲彌高山に鳳柳は彌高右を差し喰下りて寄り進み土俵際に鳳が左上手を取つて打棄らんとするを差手を伸ばして寄倒し彌高の勝▲清瀨川に琴ケ浦は琴固くなつて容易に立たず漸くにして立ち上るや琴右を差して左手に敵の右手を押へかけて押進み清瀨の土俵を廻つて殘さんと半身になるを透さず渡し込んで琴の勝▲綾川に鳴門洋は休み▲小常陸に柏戸は一寸突き合ひ小常陸の懷ろに突いて押進むを叩き込んで柏戸の勝▲大の高に大戸平は左四ツ互ひに右上手を引いて呼吸を圖る內大戸強引に吊り進み高が土俵際に殘さんとするを上手投にて勝▲駒泉に明は明の出鼻を駒側の叩き込みに行きしが明危く殘し前へ泳いで右手が敵の外股にかゝりしを幸ひそのまゝ渡し込んで勝▲常の花に千葉崎は新進元氣同志の好取組なり常右を差して一氣に寄らんとするを千葉殘して同じく右を差すや常陸左上手を取つて十八番の櫓投げに行かんとするを千葉心得て腰を落し體を預けて寄倒す▲釋迦ケ嶽に紅葉川は紅葉突きかけ左を當てゝ押進み釋迦の殘さんとするを左より突き落す▲九州山に石山は石鋭く突きかけ懷ろに飛び込んで右手を當て押さんとするを九突きのけ反對に押進み石押切つて九の勝▲兩國に土州山は土州二本差にて寄進み下手投を打つを殘して兩小手投を打ちかへし殘るを透さず押進みしが土州土俵を廻つて殘し肩透しを引かんとする際兩體を突きつけしを土州腰碎けて打倒る▲栃木山に伊勢濱は伊勢左を差さんとするを栃木差させず左を當てゝ押進み伊勢の土俵際に殘すを突き放して栃木の勝▲一港に鳳は休

△中入後

▲岩木山に鶴渡は岩木例の線香花火式に突張り再三鶴の右手を引きかけしも鶴殘し岩木の右手を引張り込んで押進む際逃身にトッタリを打つて岩木の勝▲宇都宮に藤の川は宇都宮右を覗かせ藤の出ハナを肩透しに引いて勝▲宮城山に錦島は宮城素早く二本差となるを錦門に絞つて頭引に極め出さんとする際外掛けに掛け崩れて宮城の勝▲對馬洋に黒瀨川は對馬吊身に寄るを黒瀨が打ちやりに行かんとするを對馬進みて寄倒す▲大潮に敷島は左四つに大潮寄進むを敷が殘さんとする所を喰ひ下がつて吊り上げ敷が足を縁に掛けて防ぐを潮頓著なく吊り出して潮の勝▲源氏山に朝潮は源氏烈しく突きかゝるを朝潮反對に突き進み遂に突出して勝

▲大錦に大鳴門

は双聲にて立ち上り錦突き合ひ受け流して突き進むを鳴門東溜り方へ廻り込みつゝ突き錦のバッタリ前に落ちて美事大鳴門の勝はなばなしく打ち出したり

▲七日目の取組

柏戸（藤の川）	岩木山（石島）
龍ケ崎（逆の矢）	若木山（彌高山）
紅葉川（釋迦嶽）	錦島（浦の濱）
大の高（鶴渡）	對馬洋（逆鉾）
黒瀨川（朝潮）	
源氏山（一港）	土州山（大錦）
△中入後	
大潮（鳴門洋・清瀨川）	琴ケ浦（常の花）八甲山（敷島）
宮城山（大鳴門）	九州山（眞砂石）
大戸平（駒泉）	
千葉崎（兩國・伊勢濱）	
栃木山	

▲鳳綾川休場

鳳は三日目對馬洋に勝ちし際肘を痛め四日目五日目は登場せしも六日目より休場し綾川は腹痛のため同じく六日目より休場を申し出でたり

發火藥品の研究

過般大阪市にて藥品の爆發慘事ありたるに鑑み朝鮮に於ても豫防戒の必要ありとし警務總監部保安課に於ては數日來發火性藥品の取扱ひ及び貯藏等に關し現行法規に基づき精詳密に研究中なりと

產婆看護婦試驗注意

來る六月四日及び六日に京畿道廳に於て執行せらるべき京畿道產婆看護婦試驗の願書提出期限は來る二十五日なるが目下願書の提出は僅に七、八件に過ぎず願書…可なるべし…日あれば…試驗、六日は…と因に六月四日は學說試驗、六日は實地試驗にして願書の樣式其他試驗規則等承合したき向は道地方係に照會あれば其々回答敎示すべしと

梅鶯會二日目

壽館に於ける開會の梅鶯會瑠璃會の初日は滿員の好景氣を呈したり二日目の語り物次の如し

▲忠臣藏六 一鶴▲太功記十 梅葉▲三日大平記 朝麗葉▲紫伊賀越八 冠笑▲中將姫三 駒助▲阿波鳴戸 鬼十▲三十三所靈坂 如鶯▲（掛合）染久松（野崎村）おそめ（如鶯）座頭（日東）下女（俊子）久松（一鶴）おみつ（鬼十）久作（冠笑）三味線（奈良梅）ツレ（愛次）

李朝の太祖

△非凡の强弓

龍飛御天歌 御父は桓祖王

▽李成桂王の事…（慶源赤池の故事…一）

今成興本宮に祀られた太祖李成桂王の遺徳を拜すると王は非常な豪傑であつたらしい、らしいどころではない、その傍らの寶物として遺された强い黑角弓を見ても十三本の長箭を見ても非

▽常に膂力に勝れた勇將であつたことを證明してゐる、太祖の武勇の譽れは四代目の世宗の時に出來た『龍飛御天歌』といふのに詳しく詠まれてあつて其の騎射の名人であつた事は今でも二三打位ゐの傳說が遺つてゐる、その一例を擧げると太祖が成興の永興で產れて成興で成人せられた後

▽北邊の地 即ち今の圖們江あたりの守備にゐられた時慶源の赤池といふところで龍を射殪されたはなしがある、其の時黑白二匹の龍は毎日のやうに赤池で戰をやつてゐたがその中の白か黑か或夜太祖大王の枕頭に現れ夢のお告げで助けてくれよといふ、其處で太祖は

▽お得意の强弓おつとりはつしと許りに射殪したといふことである、第二は太祖が今の洪原郡洪原邑附近で三匹の獐に出逢つた、太祖は先づ一の矢でその中の一頭を射殪し二の矢で二頭を串貫しに殪したといふことである、それにまた元山の停車場前には今でも射臺といふ巨岩があつて太祖が

▽此處から 强弓をとつて遠く長德島まで矢を飛ばしたといふはなし、實に非常な矢の名人で李朝五百年の基は太祖の矢から開かれたといふも强ち誇大な言葉ではなからう然らば此の太祖の御父桓祖といふ人は怎麼人か、桓祖の御陵は十三日李王が御參拜あつた

▽成興附近 の定陵といふのであつて王妃の陵は同じところの和陵がそれである、桓祖は素と開城の高麗朝に仕へて今の江原道即ち朔方道の萬戶であり兼今の師團長のやうな兵馬使といふものであつた、そして位は官榮祿大夫、判將作監事といふのであつて高麗の忠肅王二年に誕、天の至正廿年に昇遐、桓王の御名は太祖が朝鮮半島に

▽君臨した 後に贈られたもので神位は成興本宮の正殿に奉安してある、それで太祖はかゝる御父さんを有たれて今の成鏡線の終點永興で生ひ立たれ後成人せられて今の成興に來られたものである、今の西湖津街道にある本宮は太祖が一時龍潛して居られた舊邸の跡といふことである（第二信成興にて特派員）

さわうのさわう

▲殿下の御飯は總て京城で一粒撰りに撰りあげたもの急に米屋さんに聞けつける譯に行かぬ▲そこで元山の米屋に注文したところ一升九十錢で調へた△しかし人夫に撰らせたら怎麼ものかとやつて見たがこれも却々お廉くなかつたとの噂△元山はじめ永興、成興の高齡者には殿下から一々酒饌料を下された、然るに成南道には七十歲以上の老人が非常なもので何れも大悅びで感泣したとのこと▲また殿下御參拜の本宮はじめ各王陵に於けるお祭りには儀式もむつかしいがお供物も頗るやかましい▲中にも犧牲の羊は古來遼東の產とかなかなか入手が困難な所へ酒は宮中の特製品とかそれに一々古典的な準備が要るとの事▲祭典は古い文官服に等しい晃服といふので實に雅びやかな姿である

▲李王殿下の元山御滯在が一日延て御料理方の典膳職は米の用意にすつかり困つた

（國技館大相撲）夏場所成績表（表中○勝●負や休）

東の方	一	二	三	四	五	六	七
太刀山・伊勢濱・黒瀨川・眞砂石・土州山・大鳴門・千葉崎・敷島・大戸平 ほか	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

□觀音堂上棟式と般若會 大和町曾禰寺にては信者の盡力に依り觀音堂新築中にて落成の上は已に十一年前勸請せる西國卅三番の觀音の靈像を安置する筈なり就て來る五月十七日正午より韓大般若會並に說敎を催し引續き觀音堂の上棟式を舉行し餅撒き錢投げ等をも催す筈

□忠臣藏 十七日限り、過般來より有樂館に上場し居れる實錄忠臣藏は非常の好評にて連夜大入を續け居れるがいよいよ十七日限りなりといふ

□黃金館 十六日より新寫眞を差替へたるがその主なるものは左の如し ▲史劇紳風蓮全二十七場▲活劇船上の大秘密全五卷▲笑劇呪の名▲喜劇馬追太郎助全卷

□大正館 大宿所藏の…滿茶にて連夜好評なり

□御成座 新派…好評にて開演中

法人登記公告

加平地方金融組合ハ大正六年四月貳拾貳日目的中ニ左ノ一項ヲ追加シタリ「一〇、組合ニ加入ノ豫約ヲナシタル者ノ爲ニ出資一口ノ金額ニ達スルマデ組合員ニ非ラザル者ノ預リ金ヲ爲スコト」

右大正六年五月拾四日登記

京城地方法院加平出張所

購買

一、圖入鑛 五千參拾四個

詳細ハ十六日以降ノ朝鮮官報ニアリ

臨時土地調查局

購買入札

美濃四面版白紙四十五萬枚

右購買ス詳細ハ大正六年五月十七日以後ノ朝鮮總督府官報ヲ見ヨ

朝鮮總督府

物品購買入札

一、石炭（撫順塊炭） 四萬貳千貳百噸

一、同（撫順粉炭） 大邱大田水原納 參萬貫 五月十七日以降

右購買入札ス詳細ハ五月十七日以降朝鮮總督府官報若シクハ當部前揭示ヲ見ヨ

朝鮮駐劄軍經理部

俳界

創刊號の賣切ますます充實せる貳號

▼創刊號の賣切は何故なりや▲全國各俳誌の評說句評近詠を網羅し且つ新舊各派の俳論を掲げたる外月別に公開狀評論小說漫畫等研究と趣味を兼備したる現代無比の好俳誌なればなり

十大家選懸賞俳句あり

定價一部二十六錢 東京京橋區築地二ノ一 振替東京一七一九〇 俳界社

店員募集

年齡十六歲より二十三歲位迄身體壯健なる者得意廻りに至急採用す本人來談但確實なる保證人を要す

京城黃金町一丁目 三巴商會

魯桑種子

一、魯桑種子 土佐本場 最特撰 四圓五十錢 四十二圓

一、魯桑種子 土佐本場 特撰 三圓七十錢 三十五圓

取引方法一切前金

忠南鳥致院 朝鮮興農園（振替京城三七番）

店員募集

但し商業に經驗有之中等以上の敎育有る者若しくは確實なる保證人二名を要す年齡二十五歲以上志望の人は午前九時迄に自筆履歷書携帶本人來談あれ

京城長谷川町七十四番地 和洋紙印刷材料 近澤商店

蠶繭買入

魯桑種子 約販賣

養蠶具一式特價販賣

京城府漢江通四番地 電話龍山六四一番 振替京城三一六二番

東蠶社

松丸太各種荷揃

龍山印刷局前（電話五二一番）

竹村材木店

京日案內

勸業債券買入 京城太平通二ノ三三六 電二八三一番 勸業債券株式…支部 13

配達人數名至急募集…京城明治町二丁目 朝日新聞…京城支局 18

看護婦採用 …

有資格看護婦採用希望者は履歷書携帶來談あれ 新町病院 11

尺八▼明笛 …

萬年筆修繕と販賣は…

製阪職工募集（平版行）希望者は京城明治町二丁目精美堂印刷所電一七〇七へ

新古ミシン賣買 …

恩給年金立替 短期無保險 京城若草町…

礦物定量分析 太平町二丁目…朝鮮公論社左橫小路 坂元分析所 86

父從六位勳五等岡烈之儀病氣療養中の處養生不相叶去る十四日午前十時死去仕候此段生前辱知諸賢へ謹告仕候

追而葬儀は來る十七日午後三時郷里山口縣に於て佛式を以て相營み申候

可成廣告を以て御通知に代へ候間上申候御承知被下度

大正六年五月

男 岡…
同 …
親成總代 …
友人總代 鈴木…

四名を斬る

十五日午前一時福岡縣飯塚町近藤修蔵…は嫉妬の餘り中川喜八同人父…

十五名は十六日朝神戸より入港の船山城丸にて門司著午後出帆歸國の途に就けり

怒濤の月

小林蹴月作　武内桂舟畫

百六十七　心頭の波瀾（三）の六

『閣下、私が閣下の先手を越したと仰せられまするのは……？』

『いやなに、それは乃公が好きな園恭から來た話ぢやが……倉橋君、袖子の事に就いて、君が左樣な心遣ひを爲らるゝよりも、君は乃公に對して、より以上の強い怒りと深い恨みとを有つて居らるゝ事は、乃公もちやんと知つて居ますぢや。然るにその事は一言も口へ出さずに、いや、面色にも表はさずに、袖子の事から先へ、問ひ出さるゝとは感心の至りぢや。常らぬ推測かも知らんが、君の心は正しく此の君の筆に成た怒濤を觀つて大空に楓り昇つた月の清らけさにも比較すべきぢや。直則、斯く重にも慚愧に堪へん次第ぢやでの。』

『閣下、何事を仰せらるゝので御座います。愚鈍の私には、更に閣下の御眞意を解する事が能かねます。私から閣下に對してお恨みがあるの怒りが存するのと、左樣な事の覺わは毛頭御座いません。』

幸三郎は、多分彼の細代の事を言はるゝのであらうとは、察し得たものの、故意にそんな事は三年も昔に忘れたる如き眞似して知らぬ顏に答へたのである。

『はゝ、はア、覺わないとならば乃公もそれに優つた僥倖はないのぢや。まあ、膝を進めて一獻飲むで下され。金屏風の完成祝ひぢや。』

直則男爵は、強てその後を言はうとも爲ずに、自分から先づ配膳に向はれた。幸三郎にも勿論席を嚴められたのであつた。

『閣下、過分のお褒めを頂きました上に、斯樣な御襃詞を豪りましては恐縮の至りで御座います。』

『はゝ、はア、左樣な窮屈の事は言ふに及ばん。充分に寛いで飲まんと、酒と云ふものは旨うないもんぢやでの。こりや島よ、文も居つたの。倉橋君に、澤山酌を爲て進せにや不可ぞ。』

男爵は、愛憎好く言はるゝ間にも殆んど金屏風の端に眼を放たず感心して居らるゝ樣樣であつたが、驟て酒も斷行に進んで、顏の色さへ漸く紅に變じかけて來た頃、女中の一人を近けて、何事をか眼で知らせられたのである。幸三郎は、殆んどそれを氣付かずに居たらしい。

『倉橋君、一向に進まんやうぢやの。此の室は、こりや秘密と云ふぢやないが、乃公が邸内での別天地ぢや。何のやうに騷がうと唄はうと、何處へも洩れは爲んから、安心して飲んで下さい。』

『もう十二分に頂きまして御座います。餘り醉酊致しますと、又何時ぞやのやうに、途中で自動車にでも轢かれますと不可ませんから……。』

『はゝ、はゝ、彼の時は彼りや、特別の出來事と云ふもんぢやて。併し、今から考へて見りや、彼の時に君が乃公の自動車に轢かれたりやこそ、それが縁の緒となつて、此の大作を成就する基となつた譯ぢやでの。袖子が仲介の勞も認めにやなるまいが、又運轉手の過失も、今日となれば、所謂怪我の功名とも言へるぢや。何せは然れ、倉橋君、先刻も申した乃公が生れて初めて藝術の美を悟り得たる君の恩誼に對して、是非酬ひたい一品があるぢやから、君、文句を言はんと受納しといて呉れ給への。』

『閣下、此の上にもう報酬などを頂くべき理由は御座いません。只私の希望致しますのは、彼の袖子樣を眞の御夫人として、幾世の末までもお慈しみ下さる事が叶ひますれば、それが即ち私に取りまして、千金の御褒美を頂きましたと同樣の感謝を表する次第で御座います。』

『分つとるよ君、袖子の事は袖子の事ぢや。直則が君への謝禮は、それと少しく物が違ふぢや。斷じて辭退など爲ん事に爲て貰はんと困るて。』

『左程までに仰せ下さいますなら、御辭退は反つて失禮と存じますから一旦はお請を致しました上の事で……』

『……又……。』

幸三郎は、切迫詰つて辛くも斯う答へた。と、男爵は、其一言を合圖にお島に向つて輕く配目せられた。お島起て金屏風の蔭へ姿を沒したかと思ふと、四五分間の後、お島の手に導かれつゝ嬌々しげなる風情で、其處へ立ち現はれたのは、思ひきや、細代であつた。衣裳から髪容けは變つたが、顏の色艶、頬肉の衰へは、殆んど死人かと思はるゝばかり哀れに力なく見られた。幸三郎は、一見勃然として拳を膝に握り詰めたぎり呀とも言はずに下を向いて了つた。

純蔘精 エキス

今回東本願寺法主満鮮御巡錫の際御旅行用として御用命の榮を得たり

△十日分金八十錢 △二十日分金一圓五十錢 △三十日分金二圓二十錢 △六十日分金四圓 △九十日分金五圓五十錢

市内は電話にて御申越次第直に御届可申上候

京城黄金町四ノ一〇一 高麗人蔘製劑所 電話二五九九番 振替京城四一三六番

半えり 帯 腰帯 片側帯 おしめ帯 げ帯

京城旭町一丁目 ゑり治商店 電話二五六二番

男女刺繡弟子 拾五名至急募集

回柳坡亭俱會（龍岩酒）

數多出で蹴馬に踏まれし土筆哉　柳坡
骨拾ふ子の歸り路の土筆哉　硯水
夕陽さす磯の蹈りや土筆探り　呂月
滑り落ちてべそ止む子供土筆籠　琦好
土筆離れて鉱の最中哉　同
白酒を進めて酔ひし女哉　柳坡
白酒や鍋蓋より浪る　白湯の香　琦好
白酒のほてりし顔や燭の灯に　同
手作りて白酒の酔や夢心地　硯水

廣告

商況

大阪株式

●桃冲鐵鑛現況

……ば公司の……鐵山の採掘せる鐵鑛は六萬噸に達し……目下桃冲……

●兌換協定延期

●官營銀行休業

……なる事となれり（天）

●京畿昨年種痘狀況

……發表せり（京）

十三號電車が南大門通三丁目を進行中乘客なる忠南鳥致院の吳炳烈（二三）なるもの飛降りをなして打倒れ左耳

白髪染は何を使つたら宜いか

＝と思召方に是非今大好評の＝黒蝴蝶＝を御勸め致します。

何誰でも、白髪染を御使用になる心持は同じ事で、ホントに手數なく、完全に染上れば、宜いので御座います。今東西を通じて、數ある白髪染の中で、優良なる品質と、多大の實行を有する黒蝴蝶は、實に左の特効を完備して誠に申分の無い、白髪、赤毛染で御座います

黒蝴蝶は

唯一の特効として

染附前髪洗せず、其儘染付得られ、染法手輕く壹時間にて美麗に染上り、毛の質を損せず、染上後紫茶色に變じ枕襟元へ附く憂ひ更になし。

未だ本品を御存じなきお方は是非一度御使用遊ばせ必ず御合點が參ります

賣捌所は全國有名なる藥舖化粧品店にあり

定價 特製大四十錢 小廿五錢

効力實驗御希望之御方は郵券（廿錢）封入御申込あらば特製小瓶壹個送呈す（但御一名壹個限）

東京市淺草區南元町拾九番地 本舖 宅間末廣堂 電話下谷六六〇五番 振替口座六三二一番

本派本願寺前法主 大谷光瑞師著

懐世餘言

▼大谷師自筆額面大石版刷 ▼著者肖像及本書原稿の一節石版挿入

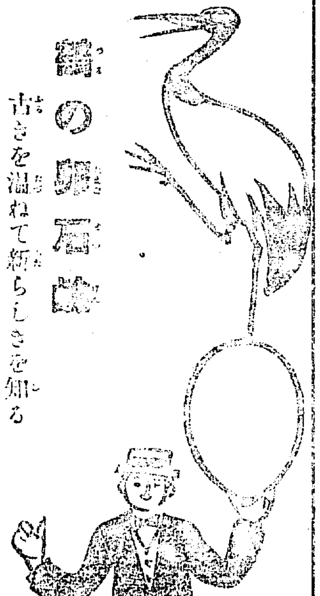
定價金三十五錢 郵税四錢

好評忽ち六版

曩に蘇峰學人の『大正の青年と帝國の前途』世に現はるゝや、師の素懐と深く契合する所あり、乃ち起て椽大の筆を揮ひ、學人の著述に對する批評贊嘆以外別に主張ある所、其の日本の現狀を喝破し、國民の自覺を切論する所、言々痛切字々悚立、以て人の毛髪を竪てしむるもの即ち本書也。劈頭先づ亞細亞主義を提唱し、日本帝國の內障と外障とを詳説し、亡國の徴歴々たりと極言し、頑夫も座に據つて立つ有らしむ。憂國の至情章節の間に流露し、蘇峰學人の『大正の青年と帝國の前途』に關心したる諸君は、又必ず本書を一讀せざる可からず。是れ自然の順序也、要請也。

發行所 東京市京橋區日吉町 振替口座二三一〇〇 民友社

大賣捌所（京城太平通二丁目 振替京城三〇〇番） 京城日報社代理部



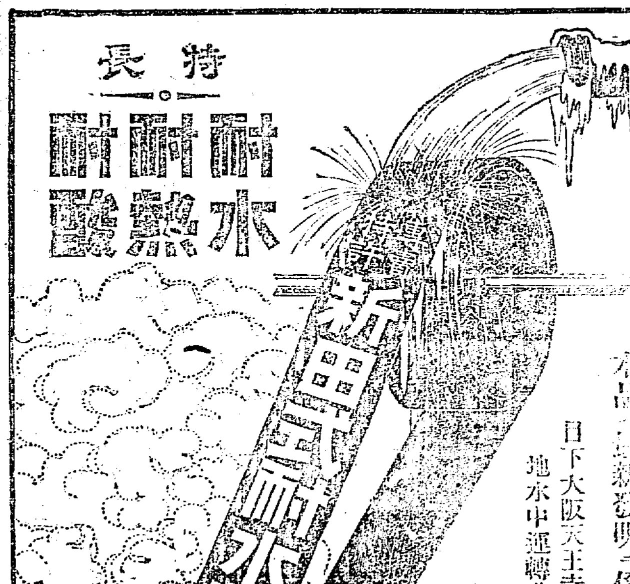
鶴の卵石鹸

古きを温ねて新らしきを知る

鶴の卵石鹸は廿年もの昔から賣出して居る品ですが現今の石鹸に比較べて、品質がよろしい徳用である、經濟である、といふ事は一度本品を使つて御覧下さい。昔の使用者も新らしく一度使つて御覧下さい。引續いての需用者は倍引續いてお使ひ下さい。未だ本品を使はぬ方は早速使つて御覧下さい。

東京馬喰町 淺井支店

特長 耐水 耐熱 耐酸



本品ハ最新發明ニ係ル理想的調革ニ御座候

目下大阪天王寺日本産業博覧會ニ於テ實地ニ運轉致居候間御高覧被下度候

▼説明書御一報次第送呈可仕候

大阪市南區難波久保吉町 合資會社 新田帯革製造所

出張店 東京 名古屋 福岡

最新刊

書名	著者	定價
●耶翁大帝	千賀高臣	三、〇〇
●禪宗哲學	小野清秀	一、二〇
●朝鮮行政及警察法規	朝鮮總督府	五五
●日本刑法 第一	牧野英一	一、〇〇
●東亞研究叢書第一編 蒙古遊牧記	東亞實進社	特二、五〇
●米國經濟と情研究	内池廉吉	一、八〇
●最近調査 無盡藏の支那貿易	東洋タイムス社	特三、〇〇
●新説十題 肥料百話 完	富田文雄	一、二〇
●商人の心得と法律	遠元之助	一、四〇
●國語の研究	佐藤寛一郎	一、〇〇
●暁定漢醫教授書	諸澤虎雄	三、五〇
●世界の過去現在未來	山路愛山	一、二〇
●貧しき人々の群	中條百合子	一、二〇
●旅	田山花袋	一、二〇
●旅の役者	坪内雄藏	八〇
●ニイチェ書簡集	辻潤譯	一、五〇
●婦人文庫料理の巻	赤堀菊子	一、〇〇
●井上和文英譯	井上十吉	一、〇〇
●最新日本歴史解釋	鈴木忠太	八五
●基本練習諸體かな帖	京城女學校 島村不老	四〇

大阪屋號書店 京城本町一丁目 電話六六〇 振替京城二五七三番

尼崎汽船仁川出帆

群山、木浦、釜山、下關、神阪行

船名	出帆
○大有丸	五月十五日後四時出帆
○君か代丸	五月廿一日後四時出帆
○秀吉丸	五月廿九日後四時出帆
○神代丸	五月　日後四時出帆

仁川海岸通三丁目 電話五十九番 高杉回漕部

日本郵船仁川出帆

○大連行、太沽（天津）牛莊行

船名	出帆
相模丸	五月廿三日正午出帆
高砂丸	六月三日正午出帆
三河丸	五月　日後十一時

仁川海岸町 電話十一番 堀回漕店

共同汽船仁川出帆

○芝罘、大連行 關東都督府命令船

會下山丸 五月十九日午後入港 五月廿一日前十時出帆

朝鮮鐵道主要驛にて荷客連絡輸送郵便取扱ひ大連にては滿鐵行定期船と連絡し客扱可仕候

阿波共同汽船株式會社 木町四丁目（電話一七三番） 仁川代理店 野口商會

元山代理店（春日町電話二四七番） 田口回漕部

京城取次店（南大門電話二六八・二一〇七） 河村運送店

汽船釜山出帆廣告

航路・船名	出帆
門司、神戸、大阪行 ○和歌浦丸	五月廿九日後五時出帆
○立神丸	五月十八日後五時出帆
元山、清津、浦鹽行 ○和歌浦丸	五月十七日後十時出帆
○立神丸	五月廿八日後四時出帆
元山、西湖、新浦、城津、清津行 ○第三泰平丸	月　日後六時出帆
門司、宇品、神戸、大阪行 ○第三泰平丸	月　日後六時出帆
佐須奈、嚴原、壹岐、博多行 ○天興丸	毎月二日九日十四日廿一日廿六日午後十時出帆

釜山港埋立新町 本船取扱店 大池回漕部

大阪商船仁川出帆

○外航路所屬航路（滿洲航路を除く）船の時は五分引を以て往復切符を發賣す

航路・船名	出帆
關門、神戸、大阪行 ×汕頭丸	五月十七日後二時出帆
×須磨丸	五月廿四日後二時出帆
汕頭丸	五月廿九日後二時出帆
木浦、釜山、嚴原、鄕の浦、長崎行 ×安東丸	五月二十日後二時出帆
×安東丸	六月七日後二時出帆
横濱行 ×漁州丸	五月廿九日後二時出帆
△麗州丸	六月三日後二時出帆
南浦、關門、神戸、大阪行 須磨丸	五月廿二日後二時出帆
鎭南浦、大連行 ×安東丸	六月二日後二時出帆
×安東丸	六月二十日後二時出帆
大連直航 ×漁州丸	五月廿四日正午出帆
△麗州丸	五月廿八日
西湖津新浦城津淸津行（元山出帆） 宮島丸	六月四日後十二時出帆
淸津行（元山出帆） 宮島丸	五月　日後十二時出帆
上海、基隆、打狗行（大連出帆） 湖北丸	五月十八日前六時出帆
基隆丸	六月三日後四時出帆

御注意 ●朝鮮鐵道及び南滿洲鐵道各驛と連絡切符發賣仕候●御乘船客は本船一時間前御乘船相成度候●×印は一等客御斷り△印は船客御斷り

切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話一二番、二二〇番、五五八番

切符發賣所 内國通運會社京城支店 電話七〇八番

切符發賣所 仁川京城通り 開發旅館 電話二六番

朝鮮郵船出帆

船名	出帆	發地
○江原丸	六月三日	釜山發
○京畿丸	五月廿四日	釜山發
○黄海丸	五月廿九日	釜山發
○咸鏡丸	五月十九日	釜山發
門司より釜山各港寄港雄基行		
○慶城丸	五月十八日	元山發
○昌平丸	五月廿一日	元山發
○鏡城丸	五月廿一日	元山發
元山より各港經由雄基行		
○昌平丸	五月　日	元山發
咸興沿岸各港寄航行		
○全羅丸	五月廿二日	釜山發
甘浦、九龍浦、浦項、各浦寄鬱陵島行		
○江陵丸	每　日	釜山發
○咸鏡丸		浦項發
長生浦方魚津寄港		
○三浦丸	五月十八日	釜山發
長承浦、巨文島、濟州島各寄港		
○海州丸 ○巨濟丸	每日	釜山發
○統營丸 ○慶尚丸		
各港經由麗水行（三日目一回木浦行）		
○平康丸	五月廿五日	元山發
城津清津雄基行仮城元山より 又は長崎行		
○順天丸	三日目毎ニ	木浦發
各港經由麗水行並び木浦より釜山行に接續		
○慶興丸	五月廿七日	木浦發
各港經由濟州島行西廻		
○慶興丸	五月廿三日	木浦發
各港經由濟州島行東廻		
○公州丸	五月廿二日	木浦發
各港經由濟州島行東廻		
○麗水丸 ○晉州丸	五月廿三日 五月十八日	仁川發
各港經由木浦行		
○宗信丸	五月廿二日	仁川發
海州他各港經由鎭南浦行		
○全州丸 ○南陽丸	毎日午前	仁川發
江華島、喬桐島、海州行		

鐵道會社及社外船と旅客連絡運送の取扱あり 本社 電話長一九五二番、二二三番 京城支店、出張所、代理店荷客取扱店に御照會ありたし 京城南大門驛前 京城荷客取扱店 松原運送店（電話長一七〇番）